

授業科目名	数学						
担当教員	河田 正樹			時 限			
授業区分	自然系	単位数	2	開講期	前期	対象学年	1年生以上
履修上の 注意事項							

①授業のねらい・概要

この科目は、経済学や情報学など大学における専門科目の基礎としての数学を学びます。
対象としては、**高校時代にあまり数学が得意でなかった学生**を想定しています。
高校までの数学の学びなおしをしながら、大学での学びにどのように結びつかを学んでいきます。

②教育目標とこの授業科目の関係

教育目標のうち、[3]「現実的な知識と手法を備え、問題解決能力を持った人材」を育成する授業科目です。問題解決を論理的におこなう際には、数学の手助けが必要となることがあります。

③授業の進め方・指示事項

前の授業の際に、授業で取り上げる内容の予習教材を紹介し、その日までに予習をして授業に臨みます。
そして、その日の内容について簡単に説明し、問題演習をおこないます。
最後に、問題の解説をおこない、定着をはかるために、復習問題を宿題として出します。
定められた期限までに、復習問題を毎回提出するようにしてください。

④関連科目・履修しておくべき科目

関連科目：統計学基礎、ミクロ・マクロ経済学演習、計量経済学、情報とメディア

⑤標準的な達成レベルの目安

- (i) 中学・高校レベルの数学をきちんと理解することができた。
- (ii) 学んだ数学の知識を生かし、単純化した現実諸問題を解決することができるようになった。

⑥教科書

使用する場合は別途指示します。

⑦参考図書・指定図書

⑧学習の到達目標とその評価の方法

具体的な学習到達目標	試験	小テスト	レポート	発表・ 実技	論文・ 作品	ポート フォリオ	その他	合計
総合評価割合	60		40					100
(i) 数学の理解	45		30					75
(ii) 現実諸問題への応用	15		10					25

⑨担当教員からのメッセージ

講義用HP (<http://www2.tokuyama-u.ac.jp/kawada>) も参照してください。
数学に対する苦手意識を持っている人は、この機会に無くしてしまいましょう。

⑩授業計画と学習課題

回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題(予習復習等)と時間(分)
1	ガイダンス・基礎力チェック 1次方程式と1次関数 需要曲線と供給曲線への応用		中学・高校時代の教科書をみておくこと 復習問題を解く
2	2元1次連立方程式 市場均衡への応用		予習教材による予習 復習問題を解く

3	2次方程式と2次関数 利潤最大化への応用		予習教材による予習 復習問題を解く	90
4	微分 利潤最大化への応用		予習教材による予習 復習問題を解く	90
5	偏微分 生産関数への応用		予習教材による予習 復習問題を解く	90
6	指数関数と対数関数 金利計算への応用		予習教材による予習 復習問題を解く	90
7	等比数列 割引現在価値への応用		予習教材による予習 復習問題を解く	90
8	三角関数		予習教材による予習 復習問題を解く	90
9	さまざまな関数の微分		予習教材による予習 復習問題を解く	90
10	行列と連立方程式(1) 行列の計算		予習教材による予習 復習問題を解く	90
11	行列と連立方程式(2) 連立方程式の解		予習教材による予習 復習問題を解く	90
12	1次変換 画像処理への応用		予習教材による予習 復習問題を解く	90
13	場合の数	場合の数	予習教材による予習 復習問題を解く	90
14	確率	確率	予習教材による予習 復習問題を解く	90
15	総復習		予習教材による予習 期末試験対策	180

授業科目名	教育相談Ⅰ						
担当教員	時津 裕子	時 限					
授業区分	教職に関する科目（共通）	単位数	2	開講期	前期	対象学年	2年生以上
履修上の注意事項	中一種免：教職に関する科目（必修） 高一種免：教職に関する科目（選択）						

①授業のねらい・概要

学校教育の受け手である生徒たちは日々、学業成績や進路選択をめぐる課題、また友人・教師・家族との対人関係など様々な問題に直面しており、ストレスや不安から心身の不調を感じたり、不登校やひきこもりなどの不適応状態に陥ることがある。教員は、彼らを取り囲む様々な問題について理解し心理的な支援を行うこと、あるいは心理職による専門的なケアまでの適切な橋渡し役となることが求められる。そのための臨床心理学的基礎知識と方法論について解説する。

②教育目標とこの授業科目の関係

本学の教育目標である「現実的な知識と手法を備え、問題解決能力を持った人材を育成する」ための授業科目である。また全学部共通のディプロマ・ポリシーである「社会人として必要となる基礎知識や、専門分野での学習に必要な基礎知識と技法を身につけること」および「自ら問題を発見し、様々な情報に基づいて思考・判断し、その解決に向けて努力する事ができること」という目標を達成するための授業科目である。

③授業の進め方・指示事項

基礎知識の解説は講義形式で行うが、心理検査の実施と結果の解釈など、実習課題も多く採り入れる。またカウンセリングのケーススタディは、ディスカッション形式を中心に実施する。安易に模範解答を参照するのではなく、自分自身で考え積極的に発言してほしい。受講生には主体的な参加を求める。

④関連科目・履修しておくべき科目

教育心理学、教育相談Ⅱとあわせて受講することを強く推奨する。

⑤標準的な達成レベルの目安

- (i) 学校教育の現場において生徒が直面する心理的問題とその支援方法について理解した
- (ii) カウンセリング・マインドとはなにかを理解し、養うことができた
- (iii) 相談・援助活動に必要な基礎的技術を身につけた

⑥教科書

とくに定めない。必要に応じて資料を配付する。

⑦参考図書・指定図書

『教師のためのカウンセリングゼミナール』菅野純 1995 実務教育出版
『チャートでわかる カウンセリング・テクニックで高める「教師力」1～5』諸富祥彦ほか(編) 2011 ぎょうせい

⑧学習の到達目標とその評価の方法

具体的な学習到達目標	試験	小テスト	レポート	発表・実技	論文・作品	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50		20	30				100
(i) 心理的問題と支援法の理解	20		5					25
(ii) カウンセリング・マインドの獲得	10		5					15
(iii) 相談・援助に必要な基礎的技術の修得	20		10	30				60

⑨担当教員からのメッセージ

自分自身がプロの心理職でなくても、生徒の相談を適切に受けられること、また専門的なケアはどのようなものでどうすれば受けられるのかを知っていることで出来ることはたくさんあります。生徒を支えてあげられる教員を目指しましょう。

⑩授業計画と学習課題				
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題(予習復習等)と時間(分)	
1	イントロダクション：教育相談とは何か、生徒をめぐる心理的諸問題		配布資料を読んでもくる 授業後、学習内容についてのミニレポートを作成する(次回提出)	40
2	臨床心理学のアウトライン：様々な「心」の問題と対処の方法		配布資料を読んでもくる 授業後、学習内容についてのミニレポートを作成する(次回提出)	40
3	カウンセリングの基礎：代表的理論と技法		配布資料を読んでもくる 授業後、学習内容についてのミニレポートを作成する(次回提出)	40
4	カウンセリング・ケーススタディ：授業・日常場面における接し方		配布資料を読んでもくる 授業後、学習内容についてのミニレポートを作成する(次回提出)	40
5	カウンセリング・ケーススタディ：呼出面接①基本的な対応		配布資料を読んでもくる 授業後、学習内容についてのミニレポートを作成する(次回提出)	40
6	カウンセリング・ケーススタディ：呼出面接②応用的な事例		配布資料を読んでもくる 授業後、学習内容についてのミニレポートを作成する(次回提出)	40
7	カウンセリング・ケーススタディ：心理検査の活用		配布資料を読んでもくる 授業後、学習内容についてのミニレポートを作成する(次回提出)	40
8	心理検査の基礎と考え方		配布資料を読んでもくる 授業後、学習内容についてのミニレポートを作成する(次回提出)	40
9	心理検査：性格検査①代表的な検査法の紹介	ノートPC	配布資料を読んでもくる 授業後、学習内容についてのミニレポートを作成する(次回提出)	40
10	心理検査：性格検査②Big Fiveの受検と解釈	ノートPC	配布資料を読んでもくる 授業後、学習内容についてのミニレポートを作成する(次回提出)	40
11	心理検査：ストレス	ノートPC	配布資料を読んでもくる 授業後、学習内容についてのミニレポートを作成する(次回提出)	40
12	心理検査：知能検査	ノートPC	配布資料を読んでもくる 授業後、学習内容についてのミニレポートを作成する(次回提出)	40
13	心理検査：興味・適性検査	ノートPC	配布資料を読んでもくる 授業後、学習内容についてのミニレポートを作成する(次回提出)	40
14	カウンセリング・ケーススタディ：生徒の親との関わり①基本的な対応		配布資料を読んでもくる 授業後、学習内容についてのミニレポートを作成する(次回提出)	40
15	カウンセリング・ケーススタディ：生徒の親との関わり②難しい親への対応		配布資料を読んでもくる 授業後、学習内容についてのミニレポートを作成する(次回提出)	40

授業科目名	教育相談Ⅱ						
担当教員	時津 裕子	時 限					
授業区分	教職に関する科目（共通）	単位数	2	開講期	後期	対象学年	2年生以上
履修上の注意事項	教職に関する科目（必修）						

①授業のねらい・概要

学校教育の受け手である生徒たちは日々、学業成績や進路選択をめぐる課題、また友人・教師・家族との対人関係など様々な問題に直面しており、ストレスや不安から心身の不調を感じたり、不登校やひきこもりなどの不適応状態に陥ることがある。教員は、彼らを取り囲む様々な問題について理解し心理的な支援を行うこと、あるいは心理職による専門的なケアまでの適切な橋渡し役となることが望まれる。そのための臨床心理学的基礎知識と方法論について解説する。

②教育目標とこの授業科目の関係

本学の教育目標である「現実的な知識と手法を備え、問題解決能力を持った人材を育成する」ための授業科目である。また全学部共通のディプロマ・ポリシーである「社会人として必要となる基礎知識や、専門分野での学習に必要な基礎知識と技法を身につけること」および「自ら問題を発見し、様々な情報に基づいて思考・判断し、その解決に向けて努力する事ができること」という目標を達成するための授業科目である。

③授業の進め方・指示事項

基礎知識の解説は講義形式で行うが、心理検査の実施と結果の解釈など、実習課題も多く採り入れる。またカウンセリングのケーススタディは、ディスカッション形式を中心に実施する。安易に模範解答を参照するのではなく、自分自身で考え積極的に発言してほしい。受講生には主体的な参加を求める。

④関連科目・履修しておくべき科目

教育心理学、教育相談Ⅰとあわせて受講することを強く推奨する。

⑤標準的な達成レベルの目安

- (i) 学校教育の現場において生徒が直面する心理的問題とその支援方法について理解した
- (ii) カウンセリング・マインドとはなにかを理解し、養うことができた
- (iii) 相談・援助活動に必要な基礎的技術を身につけた
- (iv) 発達障害をもつ生徒の指導法について理解した

⑥教科書

とくに定めない。必要に応じて資料を配付する。

⑦参考図書・指定図書

『教師のためのカウンセリングゼミナール』菅野純 1995 実務教育出版
『チャートでわかる カウンセリング・テクニックで高める「教師力」1～5』諸富祥彦ほか(編) 2011 ぎょうせい

⑧学習の到達目標とその評価の方法

具体的な学習到達目標	試験	小テスト	レポート	発表・実技	論文・作品	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50		20	30				100
(i) 心理的問題と支援法の理解	10		5					15
(ii) カウンセリング・マインドの獲得	10		5					15
(iii) 相談・援助に必要な基礎的技術の修得	20		10	30				60
発達障害児の指導法についての理解	10							10

⑨担当教員からのメッセージ

自分自身がプロの心理職でなくても、生徒の相談を適切に受けられること、また専門的なケアはどのようなものでどうすれば受けられるのかを知っていることで出来ることはたくさんあります。生徒を支えてあげられる教員を目指しましょう。

⑩授業計画と学習課題

回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題(予習復習等)と時間(分)
1	カウンセリング・ケーススタディ：進路相談①進路選択に悩む生徒への対応		配布資料を読んでもくる 授業後、学習内容についてのミニレポートを作成する(次回提出)
2	カウンセリング・ケーススタディ：進路相談②金銭的な問題を抱える生徒への援助		配布資料を読んでもくる 授業後、学習内容についてのミニレポートを作成する(次回提出)
3	心理療法について知る：精神分析療法		配布資料を読んでもくる 授業後、学習内容についてのミニレポートを作成する(次回提出)
4	心理療法について知る：認知行動療法		配布資料を読んでもくる 授業後、学習内容についてのミニレポートを作成する(次回提出)
5	心理療法について知る：サイコドラマ・エンカウンターグループ		配布資料を読んでもくる 授業後、学習内容についてのミニレポートを作成する(次回提出)
6	特定問題への対応：ストレス①生起メカニズムと心身に及ぼす影響、測定法	ノートPC	配布資料を読んでもくる 授業後、学習内容についてのミニレポートを作成する(次回提出)
7	特定問題への対応：ストレス②対処(コーピング、マネジメント)	ノートPC	配布資料を読んでもくる 授業後、学習内容についてのミニレポートを作成する(次回提出)
8	特定問題への対応：不登校①性格タイプごとの類型		配布資料を読んでもくる 授業後、学習内容についてのミニレポートを作成する(次回提出)
9	特定問題への対応：不登校②初期対応	ノートPC	配布資料を読んでもくる 授業後、学習内容についてのミニレポートを作成する(次回提出)
10	特定問題への対応：不登校③長期化した場合の対応	ノートPC	配布資料を読んでもくる 授業後、学習内容についてのミニレポートを作成する(次回提出)
11	特定問題への対応：いじめ①メカニズムと基本的な対応	ノートPC	配布資料を読んでもくる 授業後、学習内容についてのミニレポートを作成する(次回提出)
12	特定問題への対応：いじめ②統計資料から読む現状	ノートPC	配布資料を読んでもくる 授業後、学習内容についてのミニレポートを作成する(次回提出)
13	特定問題への対応：いじめ③ケーススタディ	ノートPC	配布資料を読んでもくる 授業後、学習内容についてのミニレポートを作成する(次回提出)
14	発達障害をもつ生徒の指導①学習障害、ADHD		配布資料を読んでもくる 授業後、学習内容についてのミニレポートを作成する(次回提出)
15	発達障害をもつ生徒の指導②自閉症スペクトラム障害		配布資料を読んでもくる 授業後、学習内容についてのミニレポートを作成する(次回提出)

授業科目名	教育行政論						
担当教員	石橋 孝明	時 限					
授業区分	教職に関する科目 (共通)	単位数	2	開講期	後期	対象学年	3年生以上
履修上の注意事項	教職に関する科目 (必修)						

①授業のねらい・概要

教職で求められる「教育に関する社会的、制度的または経営的事項」に関する知識の習得を通して、教員としての資質向上を図る。

②教育目標とこの授業科目の関係

教職必修であるこの授業科目を受講して教員を目指す者は、本学の教育目標 [1] 主体性を持った意欲ある人材 [2] 世界的視野と広く豊かな教養を有する人材 [3] 現実的な知識と手法を備え、問題解決能力を持った人材、であることが求められる。この授業科目は、本学の教育目標を体現できる人材を育成するよう教授する。

③授業の進め方・指示事項

教科書に即して授業を進める。必要に応じてプリントを配布する。授業計画は、進行状況・問題への関心等に応じて、一部変更することがある。教師になることを目指す以上、その自覚をもって受講すること。

④関連科目・履修しておくべき科目

関連科目：教職科目
履修しておくべき科目：

⑤標準的な達成レベルの目安

- (i) 教育に関する社会的、制度的または経営的事項に関する知識の習得ができた
- (ii) 教員としての資質向上を図ることができた

⑥教科書

【学内販売】
河野和清 編著『現代教育の制度と行政』福村出版 2,415円

⑦参考図書・指定図書

河野和清 編著『教育行政学』ミネルヴァ書房 2,520円

⑧学習の到達目標とその評価の方法

具体的な学習到達目標	試験	小テスト	レポート	発表・実技	論文・作品	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	30		10			10	100
(i) 教育行政の知識の習得	50	15		10				75
(ii) 教員としての資質向上		15					10	25

⑨担当教員からのメッセージ

教育という仕組みがどのようにして成り立っているのか、一緒に学んでいきましょう。

⑩授業計画と学習課題

回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題(予習復習等)と時間(分)
1	オリエンテーション 現代教育の諸問題：学校教育をめぐる問題や背景について考える	教科書	教科書3頁～22頁まで読んでくる Web Classによる授業内容の確認
			60

2	現代の公教育制度：公教育とは何かについて考え公教育の今日的課題を考える	教科書	教科書23頁～36頁まで読んでくる Web Classによる授業内容の確認	90
3	教育法制：教育法規の構造について考え今日の教育法制の特色を考える	教科書	教科書37頁～50頁まで読んでくる Web Classによる授業内容の確認	90
4	教育行政：教育行政とは何かについて考え今日の教育行政の仕組みを考える	教科書	教科書51頁～65頁まで読んでくる Web Classによる授業内容の確認	90
5	学校経営と学校評価：学校経営とは何か、学校評価とは何かについて考える	教科書	教科書頁66～79頁まで読んでくる Web Classによる授業内容の確認	90
6	教育課程経営：教育課程経営とは何かについて考え教育課程行政について考える	教科書	教科書80頁～93頁まで読んでくる Web Classによる授業内容の確認	90
7	教職員の職務・サービスと教育評価：教職員の職務やサービス、教育評価について考える	教科書	教科書94頁～111頁まで読んでくる Web Classによる授業内容の確認	90
8	児童と生徒の管理：子どもの権利・義務や在学管理・懲戒について考える	教科書	教科書112頁～125頁まで読んでくる Web Classによる授業内容の確認	90
9	就学前教育制度：幼稚園教育制度や保育所制度、認定こども園制度を考える	教科書	教科書126頁～140頁まで読んでくる Web Classによる授業内容の確認	90
10	特別支援教育制度：特別支援教育の意義やその制度について考える	教科書	教科書141頁～159頁まで読んでくる Web Classによる授業内容の確認	90
11	教員養成・研修制度：教職の性格、教員の養成や研修制度について考える	教科書	教科書160頁～173頁まで読んでくる Web Classによる授業内容の確認	90
12	社会教育行政：社会教育行政の組織や施設、その職員について考える	教科書	教科書174頁～187頁まで読んでくる Web Classによる授業内容の確認	90
13	教育財政：教育財政とは何かについて考えその課題について考える	教科書	教科書188頁～203頁まで読んでくる Web Classによる授業内容の確認	90
14	現代の教育行政改革の動向と課題：小さな政府や地方分権化、その課題を考える	教科書	教科書204頁～216頁まで読んでくる Web Classによる授業内容の確認	90
15	全体の振り返りとまとめ：授業全体のポイントを確認する 受講態度等をふりかえるための一助として、オンライン授業評価に回答	教科書 パソコン	Web Classによる授業内容の確認 と試験準備	180

授業科目名	特別活動						
担当教員	兼重 宗和	時 限					
授業区分	教職に関する科目（共通）	単位数	2	開講期	後期	対象学年	3年生以上
履修上の注意事項	教職に関する科目（必修）						

①授業のねらい・概要

中学校及び高等学校における特別活動の基本的性格についての理解を図るとともに、現場における実践上の課題を検討する。特別活動が、日本で初めて現れたのは、昭和22年の「学習指導要領」（この時は自由研究とか教科以外の活動）からで、この時は戦後民主主義へ期待がこめられて誕生した。その後、名称も特別活動となった。特別活動は人間形成上重要な教育活動として、学校の教育課程の中で大きな比重を占めている。授業は、特別活動が生徒の成長に果たす役割や課題を理解し、模擬授業を通して学級担任になったとき特別活動の指導ができるようになることを基本的なねらいとしている。

②教育目標とこの授業科目の関係

教育目標の「[1] 主体性を持った意欲ある人材を育成する [2] 世界的視野と広く豊かな教養を有する人材を育成する。 [3] 現実的な知識と手法を備え、問題解決能力を持った人材を育成する。」とある全てに対し当てはまる必要な授業科目である。

③授業の進め方・指示事項

講義を中心に進めるが、後半に特別活動の指導法に関して研究し、その具体的な実践方法について発表する。模擬授業の形式での発表も行う。また、Web Classを参照すること。CASKの「教職カルテ」に記入すること。

④関連科目・履修しておくべき科目

関連科目：道徳教育・教育相談・生徒指導論・倫理学概論

⑤標準的な達成レベルの目安

- (i) 特別活動の目標と内容および特質・現状について理解し説明できる。
- (ii) 特別活動のいずれかの領域についての活動計画の概要を立案し、評価を含め指導計画案が作成できる。
- (iii) 特別活動の基本的指導技術を獲得し実践できる。

⑥教科書

【学内販売】

文部科学省「中学校学習指導要領解説 特別活動編」(株)ぎょうせい 114円

文部科学省「高等学校学習指導要領解説 特別活動編」(株)海文堂出版 210円

⑦参考図書・指定図書

図書館の教職課程資料コーナー

江川玟成 編『特別活動の理論と方法』学芸図書

⑧学習の到達目標とその評価の方法

具体的な学習到達目標	試験	小テスト	レポート	発表・実技	論文・作品	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60		10	20		10		100
(i) 特別活動の内容理解	60							60
(ii) 特別活動の指導計画の立案			10					10
(iii) 特別活動の授業力				20				20
(iii) 特別活動での問題解決力						10		10

⑨担当教員からのメッセージ

本学のEQ教育やキャリア教育を活かし特別活動の指導ができる教員になってください。また、Web Classを講義前後に見て予習復習をしてください。

⑩授業計画と学習課題				
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題(予習復習等)と時間(分)	
1	オリエンテーション(授業の目標、日程と内容、授業の方法、評価方法等について解説:学校教育と特別活動)	教科書	Web Classの資料で予習	60
2	特別活動の理論(特別活動の歴史・特別活動の基本的性格・改定の要点、学校教育法施行規則)	教科書	Web Classの資料で予習 中学校学習指導要領解説特別活動編のP1～6と高等学校学習指導要領解説特別活動編のP1～5を読んでおくこと	60
3	特別活動の理論(中学校学習指導要領「特別活動」特別活動の目標、学級活動の目標と各活動・学校行事の目標との関連、人間形成と特別活動、特別活動の教育的意義特別活動の内容相互の関連、特別活動と各教科・道徳・総合的な学習の時間等との関連、学級活動の目標、学級活動の内容、学級活動の指導計画、学級活動の内容の取扱)	教科書	Web Classの資料と中学校学習指導要領解説特別活動編のP7～57を予習すること 中学校時代の学級活動の発表資料を作成すること。	90
4	特別活動の理論(中学校学習指導要領「特別活動」生徒会活動の目標、生徒会活動の内容生徒会活動の指導計画、生徒会活動・学校行事・指導計画と内容の取り扱い、学校行事の目標、学校行事の内容、学校行事の指導計画、学校行事の内容の取扱、指導計画の作成にあたっての配慮事項、内容の取扱についての配慮事項入学式や卒業式などにおける国旗及び国家の取扱、特別活動の指導を担当する教師、特別活動における評価)	教科書	Web Classの資料と中学校学習指導要領解説特別活動編のP58～105を予習すること また、中学校の特別活動全体の復習をすること 中学校時代の生徒会活動・学校行事の発表資料を作成すること。	90
5	特別活動の理論(高等学校学習指導要領「特別活動」特別活動の目標・特別活動の目標と各活動・学校行事との関連、教育課程上の位置付け、人間形成と特別活動、特別活動の内容相互の関連、特別活動と各教科・科目・道徳・総合的な学習の時間等との関連、ホームルーム活動の目標・ホームルーム活動の内容、ホームルーム活動の指導計画、ホームルーム活動の内容の取扱、生徒会活動の目標、生徒会活動の内容、生徒会活動の指導計画、生徒会活動の内容の取扱、指導計画の作成と内容の取り扱い等)	教科書	Web Classの資料と高等学校学習指導要領解説特別活動編のP6～56を予習すること 高校時代のホームルーム活動・生徒会活動の発表資料を作成すること。	90
6	特別活動の理論(高等学校学習指導要領「特別活動」学校行事の目標、学校行事の目標・学校行事の内容、学校行事の指導計画、学校行事の内容の取扱、指導計画の作成にあたっての配慮事項、内容の取扱についての配慮事項入学式や卒業式などにおける国旗及び国家の取扱、特別活動の指導を担当する教師、特別活動における評価)	教科書	Web Classの資料と高等学校学習指導要領解説特別活動編のP57～86を予習すること また、高校の特別活動全体の復習をすること 高校時代の学校行事の発表資料を作成すること。	90
7	特別活動の指導原理(学校における特別活動の原理、特別活動の指導体制、集団指導と個別指導)	教科書	Web Classの資料で予習・復習をすること	90
8	特別活動の指導計画の作成(全体計画、指導計画の意義・目的、内容等)	教科書 PC	Web Classの資料を参考に特別活動の指導計画の作成をすること	90

9	特別活動の指導実践および研究：学級（ホームルーム）活動 ・ロールプレイングによる模擬授業も行う。	教科書 PC	学級（ホームルーム）活動の指導案を作成し模擬授業ができるようにすること	90
10	特別活動の指導実践および研究：学校の生活づくり等 ・ロールプレイングによる模擬授業も行う。	教科書 PC	学校の生活づくりの指導案を作成し模擬授業ができるようにすること	90
11	特別活動の指導実践および研究：中学・高校－適応と成長および健康安全等 ・ロールプレイングによる模擬授業も行う。	教科書 PC	適応と成長および健康安全の指導案を作成し模擬授業ができるようにすること	90
12	特別活動の指導実践および研究：中学・高校－学業と進路（含教育相談）等	教科書 PC	学業と進路（含教育相談）等の指導案を作成し模擬授業ができるようにすること	90
13	特別活動の指導実践および研究：中学・高校－生徒会活動等 ・ロールプレイングによる模擬授業も行う。	教科書 PC	生徒会活動の指導案を作成し模擬授業ができるようにすること	90
14	特別活動の指導実践および研究：中学・高校－学校行事等 ・ロールプレイングによる模擬授業も行う。	教科書 PC	学校行事の指導案を作成し模擬授業ができるようにすること	90
15	各活動の指導実践、現代的課題（人権教育（いじめ、暴力、いのちの教育）、キャリア教育）まとめ	教科書 PC	これまでの内容の復習をすること	60

授業科目名	社会科教育法Ⅰ						
担当教員	兼重 宗和	時 限					
授業区分	教職に関する科目（社会）	単位数	2	開講期	前期	対象学年	2年生以上
履修上の注意事項	中一種免「社会」：教職に関する科目（必修）						

①授業のねらい・概要

戦後新しく誕生した社会科は、1989年の改訂により小学校低学年では「生活科」、高等学校では「地理歴史科」「公民科」になった。即ち社会科は、小学校中・高学年と中学校において教育されることになった。また、この改訂では「生きる力」の育成が前面に出された。2008年に新学習指導要領が告示され、「社会科」は、①社会的事象に関心を持って多面的・多角的に考察し、公正に判断する能力と態度を養い社会的な見方や考え方を成長させること、②社会的諸事象に関する基礎的・基本的な知識を確実に習得させ、それらを活用する力や課題を探究する力を育成すること、③我が国及び世界の成り立ちや今日の社会経済システム、様々な伝統や文化、宗教についての理解を深め公共的な事柄に自ら参画していく資質や能力の育成が重視された。こうした社会科の指導に対する理解と指導できる知識をつけることをねらいとする講義です。

②教育目標とこの授業科目の関係

教育目標の「[1] 主体性を持った意欲ある人材を育成する [2] 世界的視野と広く豊かな教養を有する人材を育成する。 [3] 現実的な知識と手法を備え、問題解決能力を持った人材を育成する。」とある全てに対し当てはまる必要な授業科目である。

また、中学校社会科の養成に対する理念として「社会経済の動きに関する幅広い洞察力を備え、国際情勢や歴史認識に対する深い理解のもと、平和で民主的な社会づくりに貢献できる人間力ある社会科教員を育成する。」と示すように必要な科目である。

③授業の進め方・指示事項

『中学校学習指導要領』『中学校学習指導要領解説・社会編』と中学校「社会科」の地理的分野・歴史的分野・公民的分野のそれぞれの教科書を使用して講義を進める。よって教科書を各自準備しておくこと。また、Web Classを参照すること。

④関連科目・履修しておくべき科目

日本国憲法、法律学概論、倫理学概論、教師論、教育課程論を履修しておくこと。また、日本史・外国史・人文地理学・自然地理学を履修すること。

⑤標準的な達成レベルの目安

- (i) 「中学校学習指導要領解説・社会編」の内容を理解できた。
- (ii) 中学校「社会科」を指導できる基本的知識を身につけることができた。
- (iii) 社会科指導に必要な資料を主体的に収集・選択・分析することができる。
- (iv) 積極的に発表できる。

⑥教科書

【学内販売】

文部科学省『中学校学習指導要領』東山書房（本体）560円
 文部科学省『中学校学習指導要領解説・社会編』日本文教出版(株)（本体）167円
 『新しい社会 地理』東京書籍 予定価格736円
 『社会科 中学校の歴史』帝国書院 予定価格736円
 『新しい社会 公民』東京書籍 予定価格736円

⑦参考図書・指定図書

図書館の指定図書や教職関係資料コーナーを利用してください。

⑧学習の到達目標とその評価の方法

具体的な学習到達目標	試験	小テスト	レポート	発表・実技	論文・作品	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60		25	10		5		100
(i) 学習指導要領(社会)の内容理解	40		20	10		5		75

(ii) 中学校「社会科」を指導する基本的知識	20						20
(iii) 資料収集・選択・分析能力			5				5

⑨担当教員からのメッセージ

日々の社会に関心を持ち、読書や新聞の講読、テレビのニュースなどを見るように努めるとともに、Web Class を講義前後に見て予習復習をしてください。この講座を履修する学生さんは、教員免許を取得し教職の道を目指すのであるから主体的・積極的な学習態度をとること。

⑩授業計画と学習課題

回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題(予習復習等)と時間(分)
1	・オリエンテーション ・社会科の誕生、社会科の展開、中等社会科の動向 社会科の誕生から改訂の経緯・趣旨と中教審答申	教科書	『中学校学習指導要領解説』のまえがきを読んでおくこと 50
2	・社会科教育の本質、新学習指導要領教育課程編成の一般方針、教育内容取扱に関する共通事項、授業時数等の取扱、指導計画の作成に当たって配慮すべき事項	教科書 PC	『中学校学習指導要領』のP15～19を予習しておくこと 90
3	・社会科改訂の趣旨と社会科改訂の要点 改訂理由を発表する	教科書	『中学校学習指導要領解説 社会編』のP1～16を予習し改訂理由をまとめなさい。 90
4	・社会科の目標と地理的分野の目標 分野の基本的目標・具体的目標・能力態度目標 教科目標・地理的分野目標の発表	教科書 PC	『中学校学習指導要領解説 社会編』の教科目標と分野目標を予習しPower Pointで発表できるように準備すること・復習すること 90
5	・地理的分野の内容 世界の様々な地域の世界の地域構成、世界各地の人々の生活と環境、世界の諸地域、世界の様々な地域調査	教科書	『中学校学習指導要領解説 社会編』P27～40を予習すること 90
6	・地理的分野の内容 日本の様々な地域の日本の地域構成、世界と比べた日本の地域的特色、日本の諸地域	教科書	『中学校学習指導要領解説 社会編』P40～56を予習すること 90
7	・地理的分野の内容の身近な地域の調査と内容の取り扱いと指導法 ・コンピュータ利用の地理情報の活用技能、調査等	教科書 PC	『中学校学習指導要領解説 社会編』P56～66を予習すること、地理歴分野の復習をすること。 90
8	・歴史的分野の目標と内容の歴史のとらえ方 分野の基本的目標・具体的目標・能力態度目標 歴史的分野目標の発表	教科書 PC	『中学校学習指導要領解説 社会編』P56～66を予習し、Power Pointで発表できるようにすること 90
9	・歴史的分野の内容 古代までの日本、中世の日本、近世の日本	教科書	『中学校学習指導要領解説 社会編』P72～80を予習すること 120
10	・歴史的分野の内容 近代の日本と世界、現代の日本と世界、内容の取扱、地域調査	教科書 PC	『中学校学習指導要領解説 社会編』P81～91を予習すること、歴史的分野の復習をすること 90
11	・公民的分野の目標と公民的分野の内容の私たちと現代社会 公民的分野目標の発表	教科書 PC	『中学校学習指導要領解説 社会編』P92～102を予習すること、分野目標はPower Pointで発表できるようにすること 90

12	・ 公民的分野の内容 私たちと経済、私たちと政治	教科書	『中学校学習指導要領解説 社会編』 P102～114を予習すること	90
13	・ 公民的分野の内容 私たちと国際社会の諸課題、私たちと政治 ・ 内容の取扱	教科書	『中学校学習指導要領解説 社会編』 P114～122を予習すること	90
14	・ 指導計画の作成上の配慮事項	教科書	『中学校学習指導要領解説 社会編』 P123～129を予習すること、公民 的分野の復習をすること	90
15	まとめと調査・見学の実際	教科書	Web Classや教科書で講義内容の 復習をすること	60

授業科目名	社会科教育法Ⅱ						
担当教員	兼重 宗和	時 限					
授業区分	教職に関する科目（社会）	単位数	2	開講期	後期	対象学年	2年生以上
履修上の注意事項	中一種免「社会」：教職に関する科目（必修）						

①授業のねらい・概要

1989年の改訂では「生きる力」の育成が前面に出された。2008年に告示された学習指導要領の「社会科」は、基礎的・基本的な知識、概念や技能の習得や思考力・判断力・表現力等を確実に育み言語活動の充実を図り、社会参画に関する学習を重視している。こうした社会科指導に関する理解を深め、その指導力を身につける講義である。

②教育目標とこの授業科目の関係

教育目標の「[1] 主体性を持った意欲ある人材を育成する [2] 世界的視野と広く豊かな教養を有する人材を育成する。 [3] 現実的な知識と手法を備え、問題解決能力を持った人材を育成する。」とある全てに対し当てはまる授業科目である。

また、中学校社会科の養成に対する理念として「社会経済の動きに関する幅広い洞察力を備え、国際情勢や歴史認識に対する深い理解のもと、平和で民主的な社会づくりに貢献できる人間力ある社会科教員を育成する。」と示すように必要な科目である。

③授業の進め方・指示事項

「中学校学習指導要領」と中学校「社会科」の地理的分野・歴史的分野・公民的分野のそれぞれの教科書を使用して講義を進める。よって教科書を各自準備しておくこと。また、Web Classを参照すること。

④関連科目・履修しておくべき科目

履修しておくべき科目：社会科教育法Ⅰ

⑤標準的な達成レベルの目安

- (i) 「中学校学習指導要領解説・社会編」の内容が理解できた。
- (ii) 中学校「社会科」を指導できる基本的知識を身につけることができた。
- (iii) 会科指導に必要な資料を主体的に収集・選択・分析することができる。
- (iv) 指導案の作成ができ、中学校「社会科」を指導できる実践的教育方法・技術の基本が身についた。

⑥教科書

(社会科教育法Ⅰ使用教科書)
 文部科学省『中学校学習指導要領』東山書房
 文部科学省『中学校学習指導要領解説・社会編』日本文教出版(株)
 『新しい社会 地理』東京書籍
 『社会科 中学校の歴史』帝国書院
 『新しい社会 公民』東京書籍

⑦参考図書・指定図書

図書館の指定図書や教職関係資料コーナーを利用してください。

⑧学習の到達目標とその評価の方法

具体的な学習到達目標	試験	小テスト	レポート	発表・実技	論文・作品	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	40		15	40		5		100
(i) 学習指導要領(社会)の内容理解	20		5	5				30
(ii) 中学校「社会科」を指導する基本的知識	20		5	5				30
(iii) 資料収集・選択・分析能力			5			5		10
(iv) 授業展開能力				30				30

⑨担当教員からのメッセージ

日々の社会に関心を持ち、読書や新聞の講読、テレビのニュースなどを見るように努めるとともに、Web Class を講義前後に見て予習復習をしてください。この講座を履修する学生さんは、教員免許を取得し教職の道を目指すのであるから主体的・積極的な学習態度をとること。

⑩授業計画と学習課題

回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題(予習復習等)と時間(分)	
1	・教科構造、教科目標・各分野の内容の取り扱いと指導法	教科書	Web Classで復習すること	60
2	・地理的分野の分析と指導方法 学習指導要領の内容と教科書等の教材の検討をする。	教科書	学習指導要領の内容(1)世界の様々な地域を中学地理教科書(地理)がどのように扱っているか予習すること	90
3	・地理的分野の指導方法 各自地理的分野の教科書から授業を設定し教材研究と指導資料収集、学習指導案を作成する。	教科書 PC	学習指導要領の内容(2)日本の様々な地域を中学地理教科書(地理)がどのように扱っているか予習すること	90
4	・地理的分野の指導方法 各自地理的分野の教科書から授業を設定し教材研究・学習指導案を作成する。ロールプレイングによる模擬授業も行う。	教科書 PC	教科書(地理)から授業を設定し教材研究・学習指導案を作成すること	120
5	・地理的分野の指導方法と評価 各自地理的分野の教科書から授業を設定し教材研究・学習指導案を作成する。ロールプレイングによる模擬授業も行う。また、評価を行い指導の内容を深める。	教科書 PC	教科書(地理)から授業を設定し教材研究・学習指導案を作成し、模擬授業できるようにすること 地理的分野の復習をすること	90
6	・歴史的分野の分析と指導方法 学習指導要領の内容と教科書等の教材の検討をする。	教科書 PC	学習指導要領の内容(2)古代までの日本(3)中世の日本(4)近世の日本を中学教科書(歴史)がどのように扱っているか予習すること	90
7	・歴史的分野の指導方法 各自地理的分野の教科書から授業を設定し教材研究と指導資料収集後、学習指導案を作成する。	教科書 PC	学習指導要領の内容(5)近世の日本と世界(6)現代の日本と世界を中学教科書(歴史)がどのように扱っているか予習すること	90
8	・歴史的分野の指導方法 各自地理的分野の教科書から授業を設定し教材研究・学習指導案を作成する。ロールプレイングによる模擬授業も行う。	教科書 PC	教科書(歴史)から授業を設定し教材研究・学習指導案を作成すること	90
9	・歴史的分野の指導方法と評価 各自歴史的分野の教科書から授業を設定し教材研究・学習指導案を作成する。ロールプレイングによる模擬授業も行う。また、評価を行い指導の内容を深める	教科書 PC	教科書(歴史)から授業を設定し教材研究・学習指導案を作成し、模擬授業できるようにすること 歴史的分野の復習をすること	120
10	・公民的分野の分析と指導方法 学習指導要領の内容と教科書等の教材の検討をする	教科書	学習指導要領の内容(1)私たちと現代社会(2)私たちと経済を中学教科書(公民)がどのように扱っているか予習すること	90
11	・公民的分野の指導方法 各自公民的分野の教科書から授業を設定し教材研究・資料収集後、学習指導案を作成する。	教科書 PC	学習指導要領の内容(3)私たちと政治(4)私たちと国際社会の諸問題を中学教科書(公民)がどのように扱っているか予習すること	120

12	・ 公民的分野の指導方法 各自公民的分野の教科書から授業を設定し 教材研究指導資料収集後、学習指導案を作 成する。ロールプレイングによる模擬授業 も行う。	教科書 PC	教科書（公民）から授業を設定し 教材研究・学習指導案を作成すること	90
13	・ 公民的分野の指導方法と評価 各自公民的分野の教科書から授業を設定し 教材研究・学習指導案を作成する。ロール プレイングによる模擬授業も行う。また、 評価を行い指導の内容を深める。	教科書 PC	教科書（公民）から授業を設定し 教材研究・学習指導案を作成し、 模擬授業できるようにすること 公民的分野の復習をすること	90
14	・ 適切な課題を設けて行う学習 社会科における課題の設定方法、資料の選択・ 活用、作業的体験的学習、観察・調査と報 告書、コンピュータ・情報通信ネットワー クについて	教科書 PC	社会科における課題の設定方法や 報告書等について例を作成すること	100
15	・ 各分野のまとめ	教科書	講義内容を復習すること	60

授業科目名	公民科教育法Ⅰ						
担当教員	富吉 繁貴	時 限					
授業区分	教職に関する科目（社会）	単位数	2	開講期	前期	対象学年	3年生以上
履修上の注意事項	高一種免「公民」：教職に関する科目（必修）						

①授業のねらい・概要

高等学校公民科の「現社」を中心に「政経・倫理社会」をどのように教えて行くかを考える。また同時に中学校社会科の公民的分野についても考えていく。

②教育目標とこの授業科目の関係

現代社会は学際的、総合的な科目であり、倫理社会も公正な判断力が求められる科目である。まさに人間の公正でバランスのとれた「生きる力」と知の「総合力」が問われる事になる。思考と行動はチョイス（選択）の連続である。

③授業の進め方・指示事項

主として講義形式で進める。
※現場実習では知識や情報だけでなく、メンタル面の心を耕作する教育が必要である。オール出席が前提。

④関連科目・履修しておくべき科目

倫理学概論、道徳教育など。

⑤標準的な達成レベルの目安

- (i) 公民的（政経社会的）な見方・考え方の構造的な理解と認識を深化させる。
- (ii) 目に見えない物・見える物をいかに分かり易く可視化し、見える化するかの能力と公民特有の時空をこえて、総合的把握と総合的制度化の指導法を理解する。
- (iii) 政経・現代社会・倫理社会に関する生徒の主体的な学習指導の基本的能力を養う。

⑥教科書

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編』（学内販売）

⑦参考図書・指定図書

『現代社会用語集』『政治経済用語集』山川出版社
日本公民教育学会編『公民教育辞典』など

⑧学習の到達目標とその評価の方法

具体的な学習到達目標	試験	小テスト	レポート	発表・実技	論文・作品	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80		10				10	100
(i) 政治・経済・社会の基本知識	80							80
(ii) 図表のレポート			10					10
(iii) 指導案の作成							10	10

⑨担当教員からのメッセージ

他の学生の模範となり頑張ってもらいたい。オール出席が前提。いい加減な気持ちで受講しないこと。（授業計画は変更する事がある。）

⑩授業計画と学習課題

回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題（予習復習等）と時間（分）
1	公民科入門とオリエンテーション	ノート	ノートの整理と復習 30
2	公民科の歴史と変遷	ノート	ノートの整理と復習 30
3	公民科の学習目標と内容構成	ノート	ノートの整理と復習 30
4	政経社教育の特質	ノート	ノートの整理と復習 30

5	公民的見方・考え方	ノート	ノートの整理と復習	30
6	公民・現代社会を中心としてその教育上の諸問題	ノート	ノートの整理と復習	30
7	学習指導要領と公民科の諸問題	ノート	ノートの整理と復習	30
8	年間指導計画と単元の指導計画	ノート	ノートの整理と復習	30
9	公民科の学習指導案作成	ノート	ノートの整理と復習	30
10	その指導案と授業展開事例①	ノート	ノートの整理と復習	30
11	指導案と授業展開事例②	ノート	ノートの整理と復習	30
12	公民的分野と内容－日本社会の特質－	ノート	ノートの整理と復習	30
13	公民的分野と内容－日本文化の特質－	ノート	ノートの整理と復習	30
14	シチズンシップ・民主主義・グローカリゼーションの教育	ノート	ノートの整理と復習	30
15	まとめ－良き社会・良き市民・公民を育てるために－	ノート	ノートの整理と復習	30

授業科目名	公民科教育法Ⅱ						
担当教員	富吉 繁貴	時 限					
授業区分	教職に関する科目（社会）	単位数	2	開講期	後期	対象学年	3年生以上
履修上の注意事項	高一種免「公民」：教職に関する科目（必修）						

①授業のねらい・概要

今後の改訂で、「公共」「市民性＝シチズンシップ」（英国の市民資格権教育）「道徳」という科目教育導入等変化が予想されるが、公民の目標「広い視野に立って、現代の社会について主体的に考察させ、理解を深め・・・人間としての在り方生き方についての自覚を育て、平和で民主的な国家・社会の有為な形成者としての必要な」公民的資質を養うという共通普遍性と多様性の教育尊重に変わりはないと思う。

②教育目標とこの授業科目の関係

「現代社会」では冒頭の項目で「幸福」「正義」「公正」という概念をあげるなど、教育目標と人材養成は密接である。

③授業の進め方・指示事項

各自が学習指導案を作成し、それに基づいて模擬授業を実施する。その後全員で討議討論を行う。発表その他で無断長期欠席すると、発表のチャンスを失いますし、不可となります。レポート等は必ず期限内に提出の事。
※中学校一種免許状「社会」、高等学校一種免許状「公民」に必要な科目です。オール出席が前提。

④関連科目・履修しておくべき科目

倫理学概論、道徳教育、公民科教育法Ⅰなど。

⑤標準的な達成レベルの目安

- (i) 指導案の作成ができる。
- (ii) 模擬授業がきちんと行われている。
- (iii) 討議への参加意欲、司会の良しあし、発表プレゼンテーションの良しあし。

⑥教科書

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編』（学内販売）

⑦参考図書・指定図書

『現代社会用語集』『政治経済用語集』山川出版社
 日本公民教育学会編『公民教育辞典』
 大杉昭英著『高等学校新学習指導要領の展開 公民科編』明治図書
 教育実習を考える会編『教育実習生のための学習指導案作成教本 社会・地歴・公民科』蒼丘書林

⑧学習の到達目標とその評価の方法

具体的な学習到達目標	試験	小テスト	レポート	発表・実技 模擬授業	論文・作品	ポートフォリオ	その他 指導案	合計
総合評価割合			20	50			30	100
(i) 指導案							30	30
(ii) 模擬授業				50				50
(iii) 発言力・批判力・ 分析力・まとめる力・調整力			20					20

⑨担当教員からのメッセージ

オール出席が前提。模範的な態度、討議への積極的参加、時間の自己調整、発表への一生懸命さが伝わる様にして下さい。（授業計画は変更する事がある。）

⑩授業計画と学習課題				
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題(予習復習等)と時間(分)	
1	学習目標と指導内容(公民)	ノート	ノートをよく整理していく事	30
2	学習目標と指導内容(現代社会)	ノート	ノートをよく整理していく事	30
3	学習目標と指導内容(政経)	ノート	ノートをよく整理していく事	30
4	学習目標と指導内容(倫理社会)	ノート	ノートをよく整理していく事	30
5	教材研究と模擬授業(公民)	ノート	ノートをよく整理していく事	30
6	教材研究と模擬授業(現代社会①)	ノート	ノートをよく整理していく事	30
7	教材研究と模擬授業(現代社会②)	ノート	ノートをよく整理していく事	30
8	教材研究と模擬授業(政経)	ノート	ノートをよく整理していく事	30
9	教材研究と模擬授業(倫理社会)	ノート	ノートをよく整理していく事	30
10	公民科(市民学)の持つ意味	ノート	ノートをよく整理していく事	30
11	人生のライフサイクルと幸福教育	ノート	ノートをよく整理していく事	30
12	自己決定と話しあいの民主主義教育	ノート	ノートをよく整理していく事	30
13	世界のシチズンシップ(市民資格権)教育	ノート	ノートをよく整理していく事	30
14	コミュニティでの自己実現共生連帯と万人にとって良い社会(多様性の尊重と人権の尊重)	ノート	ノートをよく整理していく事	30
15	まとめ-公共の福祉・私益個人益のバランス、各国各自のグッドガバナンス・グッドガバメント・グッドソサエティ・グッドライフの実現へむかって	ノート	ノートをよく整理していく事	30

授業科目名	地理歴史科教育法Ⅰ						
担当教員	柚洞 一央	時 限					
授業区分	教職に関する科目（社会）	単位数	2	開講期	前期	対象学年	3年生以上
履修上の注意事項	高一種免「地理歴史」：教職に関する科目（必修） ・かなり厳しい内容の授業になりますので覚悟して受講するように。						

①授業のねらい・概要								
本講義では主に高等学校で履修する地理A・Bと世界史A・B、日本史A・Bに関しての現在の指導の方向性や問題点について学習する。また、それぞれの科目における学習指導計画案の作成方法についても学んでいく。								
②教育目標とこの授業科目の関係								
教育目標のうち、【2】「世界的視野と広く豊かな教養を有する人材を育成する」ために必要な授業科目である。								
③授業の進め方・指示事項								
基本的に教科書である「地理歴史科教育」に沿って講義を進めていく。「高等学校学習指導要領解説」も適宜使用していくので、どちらも講義の時は持参すること。								
④関連科目・履修しておくべき科目								
地理歴史科教育法Ⅱ								
⑤標準的な達成レベルの目安								
(i) 地理歴史科教育の基礎的な知識を獲得する (ii) 各科目の学習指導計画の作成方法を知る (iii) 地理歴史科教育に対する自身の意見を言える								
⑥教科書								
社会認識教育学会 編 2010.『地理歴史科教育』学術図書出版社 1,995円（学内販売） 文部科学省 2010.『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』教育出版 410円（学内販売）								
⑦参考図書・指定図書								

⑧学習の到達目標とその評価の方法								
具体的な学習到達目標	試験	小テスト	レポート	発表・実技	論文・作品	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		10	10	80				100
(i) 地理歴史科教育の基礎知識		10						10
(ii) 指導計画の作成				80				80
(iii) 自身の意見			10					10

⑨担当教員からのメッセージ								
「生きた授業」をするにはどうしたらよいか。中学校や高校で実際に行われている授業参観や教材研究を通して学んでいきます。								

⑩授業計画と学習課題								
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題（予習復習等）と時間（分）					
1	オリエンテーション	教科書						
2	地理歴史科教育の意義と課題	教科書	教科書の該当箇所を読んでおく					30
3	地理歴史科教育論・実践の歴史	教科書	教科書の該当箇所を読んでおく					30
4	地理歴史科境域の目標論・学力論	教科書	教科書の該当箇所を読んでおく					30
5	地理の内容と学習指導①－地理の内容構成－	教科書	教科書の該当箇所を読んでおく					30

6	地理の内容と学習指導②－地理の学習指導計画－	教科書	教科書の該当箇所を読んでおく	30
7	地理の内容と学習指導③－地理教育の諸問題・論争点－	教科書	教科書の該当箇所を読んでおく	30
8	日本史の内容と学習指導①－日本史の内容構成－	教科書	教科書の該当箇所を読んでおく	30
9	日本史の内容と学習指導②－日本史の学習指導計画－	教科書	教科書の該当箇所を読んでおく	30
10	日本史の内容と学習指導③－日本史教育の諸問題・論争点－	教科書	教科書の該当箇所を読んでおく	30
11	世界史の内容と学習指導①－世界史の内容構成－	教科書	教科書の該当箇所を読んでおく	30
12	世界史の内容と学習指導②－世界史の学習指導計画－	教科書	教科書の該当箇所を読んでおく	30
13	世界史の内容と学習指導③－世界史教育の諸問題・論争点－	教科書	教科書の該当箇所を読んでおく	30
14	地理歴史科教育の評価	教科書	教科書の該当箇所を読んでおく	30
15	まとめ	教科書	これまでの講義の復習をしておく	60

授業科目名	地理歴史科教育法Ⅱ						
担当教員	柚洞 一央	時 限					
授業区分	教職に関する科目（社会）	単位数	2	開講期	後期	対象学年	3年生以上
履修上の注意事項	高一種免「地理歴史」：教職に関する科目（必修） ・かなり厳しい内容の授業になりますので覚悟して受講するように。						

①授業のねらい・概要

地理・歴史科教育における歴史を概観し、今日における地理・歴史科教育の意義と問題点について、指導要領をもとにしたグループディスカッションにより検討する。また、模擬授業を行うことで、授業進行・展開に関する技術を獲得する。

②教育目標とこの授業科目の関係

教育目標のうち、【1】「主体性を持った意欲ある人材を育成する」【3】「現実的な知識と手法を備え、問題解決能力を持った人材を育成する」ために必要な授業科目である。

③授業の進め方・指示事項

学習指導要領の分析を、世界史、日本史、地理の各科目についてグループで検討し、発表する。さらにグループで学習指導案を作成し、代表者に30分の模擬授業を行ってもらおう。その模擬授業の結果をもとに、より良い授業にするためにはどうすればよいのかをグループで議論し、発表してもらおう。

④関連科目・履修しておくべき科目

地理歴史科教育法Ⅰ

⑤標準的な達成レベルの目安

- (i) 地理・歴史科教育についての基礎知識を獲得する。
- (ii) 自身の意見をまとめ、他者と議論することができる
- (iii) スムーズな授業進行をできるようになる。

⑥教科書

文部科学省 2010.『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』教育出版 410円（学内販売）

⑦参考図書・指定図書

⑧学習の到達目標とその評価の方法

具体的な学習到達目標	試験	小テスト	レポート	発表・実技	論文・作品	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			40	60				100
(i) 地理歴史科教育の基礎知識			10					10
(ii) 自身の意見を持つ			30	30				60
(iii) スムーズな授業進行				30				30

⑨担当教員からのメッセージ

よりよい授業をするためには、客観的な視点で自身の授業を見てもらうことが重要です。多くの人とディスカッションすることで、よりよい授業ができるようになります。

⑩授業計画と学習課題

回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題(予習復習等)と時間(分)
1	オリエンテーション	教科書	
2	地理歴史科教育の指導要領の概説	教科書	

3	各教科（地理・世界史・日本史）の指導要領の現在の方向性などに関するグループディスカッション	教科書	ディスカッション内容の精査と次回講義の発表の準備	60
4	地理の学習指導要領に関するグループディスカッションの結果発表	教科書	ディスカッションのまとめ	30
5	日本史の学習指導要領に関するグループディスカッションの結果発表	教科書	ディスカッションのまとめ	30
6	世界史の学習指導要領に関するグループディスカッションの結果発表	教科書	ディスカッションのまとめ	30
7	模擬授業のグループ分けおよび準備	教科書	模擬授業の準備	90
8	地理の模擬授業	作成した指導計画		
9	日本史の模擬授業	作成した指導計画		
10	世界史の模擬授業	作成した指導計画		
11	模擬授業の結果をもとにしたより良い授業を行うためのグループディスカッション		グループディスカッションのまとめと発表準備	60
12	地理の授業に関するグループディスカッションの結果発表		ディスカッションのまとめ	30
13	日本史の授業に関するグループディスカッションの結果発表		ディスカッションのまとめ	30
14	世界史の授業に関するグループディスカッションの結果発表		ディスカッションのまとめ	30
15	まとめ			

授業科目名	商業科教育法Ⅰ						
担当教員	中村 行宣	時 限					
授業区分	教職に関する科目（商業）	単位数	2	開講期	前期	対象学年	3年生以上
履修上の注意事項	高一種免「商業」：教職に関する科目（必修）						

①授業のねらい・概要

商業科の教員として必要な商業教育に関する基礎的資質を身に付けることを目的とする。

②教育目標とこの授業科目の関係

教育目標の3つの全項目に関係する科目である。
「主体性をもった意欲ある人材」「広く豊かな教養を有する人材」「現実的な知識と手法を備える人材」の育成を通して、人間形成・自己実現を図る科目である。

③授業の進め方・指示事項

基礎的内容についての講義後、演習・発表・討論・助言の形式で実践的・体験的な授業展開をする。

④関連科目・履修しておくべき科目

関連科目：商業科教育法Ⅱ

⑤標準的な達成レベルの目安

高等学校の商業科教員として生徒を指導するためには、何を学び何を習得しておくべきかを考え、その指導内容と指導法、教育課程と指導計画の作成等について理解する。

⑥教科書

『高等学校学習指導要領』（平成21年3月告示）文部科学省（株）東山書房 666円
『高等学校学習指導要領解説 商業編』（平成22年5月）文部科学省 実教出版（株） 459円
『ビジネス基礎』（7実教 301）文部科学省検定済教科書 実教出版（株） 900円
『高校簿記』（7実教 307）文部科学省検定済教科書 実教出版（株） 1390円
（4月当初に、全4冊を学内売店で購入しておくこと。）

⑦参考図書・指定図書

必要に応じて、授業で指示する。

⑧学習の到達目標とその評価の方法

具体的な学習到達目標	試験	小テスト	レポート	発表・実技	論文・作品	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50		20	30				100
(i) 指導要領の理解（総則）	10							10
(ii) //（商業）	20		10	20				50
(iii) 教育課程の作成と学習計画	20		10	10				40

⑨担当教員からのメッセージ

教員は、やり甲斐のある魅力ある職業です。教壇に立つために一緒に頑張りましょう。

⑩授業計画と学習課題

回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題（予習復習等）と時間（分）
1	授業計画、学校教育一般 高等学校学習指導要領（総則）（Ⅰ）	教科書	指導要領（総則） 90
2	高等学校学習指導要領（総則）（Ⅱ）	教科書	指導要領（総則） 120

3	商業教育の意義と教科「商業」の目標	教科書	指導要領（商業）	90
4	商業教育の歴史	教科書 配付資料	参考図書、Web検索等による調査研究	90
5	教育課程の変遷	教科書 配付資料	参考図書、Web検索等による調査研究	120
6	教科「商業」の科目編成と分野の構成	教科書	指導要領解説編（商業）	90
7	基礎的科目	教科書	商業の基礎的科目の研究	90
8	マーケティング分野の科目	教科書	マーケティング分野の科目の研究	90
9	ビジネス経済分野の科目	教科書	ビジネス経済分野科目の研究	90
10	会計分野の科目	教科書	会計分野科目の研究	120
11	ビジネス情報分野の科目	教科書	ビジネス情報分野科目の研究	120
12	総合的科目	教科書	総合的科目の研究	90
13	教育課程の編成（Ⅰ）	教科書	指導要領の該当箇所の学習	120
14	教育課程の編成（Ⅱ）	教科書	指導要領の該当箇所の学習	120
15	指導計画作成と内容の取り扱い	教科書	指導要領の該当箇所の学習	90

授業科目名	商業科教育法Ⅱ						
担当教員	中村 行宣	時 限					
授業区分	教職に関する科目（商業）	単位数	2	開講期	後期	対象学年	3年生以上
履修上の注意事項	高一種免「商業」：教職に関する科目（必修）						

①授業のねらい・概要

商業科の教員として指導方法や指導技術など実践的指導力を身に付けることを目的とする。
商業の各科目の指導内容を理解するとともに、指導方法、評価等について模擬授業等を通して理解する。

②教育目標とこの授業科目の関係

教育目標の3つの全項目に関係する科目である。
「主体性をもった意欲ある人材」「広く豊かな教養を有する人材」「現実的な知識と手法を備える人材」の育成を通して、人間形成・自己実現を図る科目である。

③授業の進め方・指示事項

一人一人が「学習指導案」を作成し、先生・生徒それぞれの立場になって、模擬授業を行う。
その後、直ちに反省会を行い、意見発表・討論・指導助言という形式で授業を展開する。また、商業に関する学科における教育課程を具体的に編成するとともに、高等学校での教育実習や教員採用試験対策についても説明する。

④関連科目・履修しておくべき科目

関連科目：商業科教育法Ⅰ

⑤標準的な達成レベルの目安

「商業科教育法Ⅰ」で学習した内容をもとに、商業に関する科目の指導計画・学習指導案の作成、模擬授業等によって実践的・体験的に学習し、望ましい教師像を探る。また、商業に関する学科の教育課程編成について学習する。

⑥教科書

（「商業科教育法Ⅰ」に同じ）

⑦参考図書・指定図書 必要に応じて、授業で指示する。

（「商業科教育法Ⅰ」に同じ）

⑧学習の到達目標とその評価の方法

具体的な学習到達目標	試験	小テスト	レポート	発表・実技	論文・作品	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			30	50		20		100
(i) 指導計画			15	10				25
(ii) 指導案			15	10				25
(iii) 模擬授業				30		20		50

⑨担当教員からのメッセージ

すぐにも教壇に立てるように、教科指導のみでなく、総合的な指導力を身に付けることができるよう授業を展開する。

⑩授業計画と学習課題

回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題（予習復習等）と時間（分）
1	商業教育の現状	教科書	参考図書、Web検索等による調査研究 90
2	年間学習指導計画の作成	教科書	参考図書、Web検索等による調査研究 90
3	教材研究の進め方	教科書	参考図書、Web検索等による調査研究 90

4	学習指導案の作成（Ⅰ）	教科書	指導案の素案作り	120
5	模擬授業（Ⅰ）	教科書 配付資料	授業研究	180
6	学習指導案の作成（Ⅱ）	教科書 配付資料	指導案の素案作り	120
7	模擬授業（Ⅱ）	教科書 配付資料	授業研究	180
8	授業技術（Ⅰ）	教科書 配付資料	参考図書、Web検索等による調査研究	90
9	学習指導案の作成（Ⅲ）	教科書 配付資料	指導案の素案作り	120
10	模擬授業（Ⅲ）	教科書 配付資料	授業研究	180
11	授業技術（Ⅱ）	教科書 配付資料	参考図書、Web検索等による調査研究	90
12	学習指導案の作成（Ⅳ）	教科書 配付資料	指導案の素案作り	120
13	模擬授業（Ⅳ）	教科書 配付資料	授業研究	180
14	教育課程の編成について	教科書 配付資料	指導要領	90
15	今後の商業教育について	教科書	Web検索等による調査研究	90

授業科目名	保健体育科教育法Ⅰ						
担当教員	前田 一篤	時 限					
授業区分	教職に関する科目（保健体育）	単位数	2	開講期	前期	対象学年	2年生以上
履修上の注意事項	高一種免「保健体育」：教職に関する科目（必修）						

①授業のねらい・概要

高等学校における保健体育科教育の意義と目的を理解する。主に 1) 保健体育科の意義と役割 2) 保健体育科教育の目標・内容 3) 保健体育科の授業づくり などを取り上げ、保健体育科教員を目指す上での基礎となるものの理解を深める。

②教育目標とこの授業科目の関係

本授業は教育目標の全てと関連する。とりわけ、保健体育科教員として〔2〕「世界的視野と広く豊かな教養を有する人材を育成する」ために必要な授業科目である。

③授業の進め方・指示事項

本授業では講義での展開が中心であり、出席状況・受講態度・試験の成績などにより総合的に評価する。

④関連科目・履修しておくべき科目

保健体育科教育法Ⅱ・保健体育科教育法Ⅲ・保健体育科教育法Ⅳ

⑤標準的な達成レベルの目安

- (i) 保健体育科の目的・内容・学習過程・指導方法などの基本的構造について理解し、説明することができる。
- (ii) 保健体育科の指導案を作成することができる。

⑥教科書

高橋健夫ほか（2010）「新版 体育科教育学入門」．大修館書店．2,400円（学内販売）
 文部科学省（2008）「中学校学習指導要領解説 保健体育編」．397円（学内販売）
 文部科学省（2009）「高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編」．491円（学内販売）

⑦参考図書・指定図書

⑧学習の到達目標とその評価の方法

具体的な学習到達目標	試験	小テスト	レポート	発表・実技	論文・作品	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			20	20		40	20	100
(i) 保健体育科の目的・内容・学習過程・指導方法などの基本的構造について理解し、説明することができる。			20			40		60
(ii) 保健体育科の指導案を作成することができる。				20			20	40

⑨担当教員からのメッセージ

保健体育科教員を目指すにあたって大切な内容です。一緒に学んでいきましょう。

⑩授業計画と学習課題

回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題（予習復習等）と時間（分）
1	よい保健体育科教員になるために		
2	体育の目的と基本的構造	教科書	学習内容の復習 30

3	体育の領域構成	教科書	学習内容の復習	30
4	体育の学習内容（教科内容の構造）	教科書	学習内容の復習	30
5	体育科の教材・教具（1）（教材・教具づくりの基本的視点）	教科書	教材・教具の考案	60
6	体育科の教材・教具（2）（教材・教具の作成）	教科書	教材・教具の考案とレポート	60
7	体育科の学習指導（学習指導の具体的な進め方と教授行動）	教科書	学習内容の復習	30
8	体育の学習形態	教科書	学習内容の復習	30
9	体育の指導計画と指導案の作成	教科書	指導案の作成	60
10	マイクロ・ティーチング（模擬授業）	教科書	指導案の作成・修正	60
11	マイクロ・ティーチング（模擬授業）	教科書	指導案の修正	60
12	体育の学習評価	教科書	学習内容の復習	30
13	保健分野の目的と基本的構造	教科書	学習内容の復習	30
14	体育理論について	教科書	学習内容の復習	30
15	総括と定期試験	教科書		

授業科目名	保健体育科教育法Ⅱ						
担当教員	前田 一篤	時 限					
授業区分	教職に関する科目（保健体育）	単位数	2	開講期	後期	対象学年	2年生以上
履修上の注意事項	高一種免「保健体育」：教職に関する科目（必修）						

①授業のねらい・概要

本授業は、高等学校における保健体育科教師としてよい体育授業を実践するのに必要とされる、基本的な知識や技能、及び実践力を養うことを目的とする。とりわけ、①体育授業設計能力（体育授業をつくる力）、②体育授業運営能力（授業をまわす力）、③体育授業実践能力（子どもに教える力）、④運動観察・分析能力（見取る力）の4つの知識や能力を講義で理解し、模擬授業や授業観察で習得する。

②教育目標とこの授業科目の関係

本授業は教育目標の全てと関連する。とりわけ、[2]「世界的視野と広く豊かな教養を有する人材を育成する」および[3]「現実的な知識と手法を備え、問題解決能力を持った人材を育成する」ことに深く関連し、保健体育科教員を目指すために必要な授業科目である。

③授業の進め方・指示事項

本授業は、講義による知識の補完と模擬授業による実践とを交えて進める。また、模擬授業の実践の他、講義の始めに実施する確認テストや、作成したポートフォリオによって総合的に評価していく。

④関連科目・履修しておくべき科目

関連科目：保健体育科教育法Ⅲ・保健体育科教育法Ⅳ
履修しておくべき科目：保健体育科教育法Ⅰ

⑤標準的な達成レベルの目安

- (i) 学習内容をおさえたうえで、授業を計画・設計することができる。
- (ii) ポートフォリオを用いて、学習内容を振り返ることができる。

⑥教科書

⑦参考図書・指定図書

文部科学省（2008）「中学校学習指導要領解説 保健体育編」
文部科学省（2009）「高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編」

⑧学習の到達目標とその評価の方法

具体的な学習到達目標	試験	小テスト	レポート	発表・実技	論文・作品	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		10		30		50	10	100
(i) 学習内容をおさえたうえで、授業を計画・設計することができる。		10		30			10	50
(ii) ポートフォリオを用いて、学習内容を振り返ることができる。						50		50

⑨担当教員からのメッセージ

保健体育科教員を目指す上での基本的なことを学習し、それらをより実践に近い形で身につけて行くことを目指します。共に学んでいきましょう。

⑩授業計画と学習課題				
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題(予習復習等)と時間(分)	
1	オリエンテーション(授業の概要, 模擬授業, 授業評価について)			
2	体育授業を実践するのに必要な教師の能力とは	参考図書・ポートフォリオ	学習内容の復習	60
3	体育授業を設計するⅠ(体育授業設計能力の育成:年間計画と単元計画)	参考図書・ポートフォリオ	学習内容の復習	60
4	体育授業を設計するⅡ(体育授業設計能力の育成:本時指導案の作成方法)	参考図書・ポートフォリオ	学習内容の復習と指導案の作成	60
5	体育授業を運営する(体育授業マネジメント能力の育成)	参考図書・ポートフォリオ	学習内容の復習と指導案の作成	60
6	模擬授業(1)(模擬授業実践とワークショップ型協議会)	参考図書・ポートフォリオ	学習内容の復習と指導案の作成	60
7	模擬授業(2)(模擬授業実践とワークショップ型協議会)	参考図書・ポートフォリオ	学習内容の復習と指導案の作成	60
8	体育授業を実践するⅠ(体育授業実践能力の育成:基礎的な教授技術)	参考図書・ポートフォリオ	学習内容の復習と指導案の作成	60
9	体育授業を実践するⅡ(体育授業実践能力の育成:応用的な教授技術)	参考図書・ポートフォリオ	学習内容の復習と指導案の作成	60
10	模擬授業(3)(模擬授業実践とワークショップ型協議会)	参考図書・ポートフォリオ	学習内容の復習と指導案の作成	60
11	模擬授業(4)(模擬授業実践とワークショップ型協議会)	参考図書・ポートフォリオ	学習内容の復習と指導案の作成	60
12	体育授業における生徒の運動を観察・分析する(つまずく生徒たちへの対応)	参考図書・ポートフォリオ	学習内容の復習と指導案の作成	60
13	体育授業を振り返る(体育授業のアセスメントとリフレクション)	参考図書・ポートフォリオ	学習内容の復習と指導案の作成	60
14	模擬授業(3)(模擬授業実践とワークショップ型協議会)	参考図書・ポートフォリオ	学習内容の復習と指導案の作成	60
15	まとめとポートフォリオ・プレゼンテーション(定期試験)の説明	参考図書・ポートフォリオ	ポートフォリオの整理	30

授業科目名	保健体育科教育法Ⅲ						
担当教員	前田 一篤	時 限					
授業区分	教職に関する科目（保健体育）	単位数	2	開講期	前期	対象学年	3年生以上
履修上の注意事項	中一種免「保健体育」：教職に関する科目（必修）						

①授業のねらい・概要

本授業は、中学校における保健体育科教師としてよい体育授業を実践するのに必要とされる、基本的な知識や技能、及び実践力を養うことを目的とする。本授業では、主に保健教育を中心に扱う。

②教育目標とこの授業科目の関係

本授業は教育目標の全てと関連する。とりわけ、[2]「世界的視野と広く豊かな教養を有する人材を育成する」および[3]「現実的な知識と手法を備え、問題解決能力を持った人材を育成する」ことに深く関連し、保健体育科教員を目指すために必要な授業科目である。

③授業の進め方・指示事項

本授業は、講義による知識の補完と模擬授業による実践とを交えて進める。また、模擬授業の実践の他、講義の始めに実施する確認テストや、作成したポートフォリオによって総合的に評価していく。

④関連科目・履修しておくべき科目

関連科目：保健体育科教育法Ⅳ
履修しておくべき科目：保健体育科教育法Ⅰ・保健体育科教育法Ⅱ

⑤標準的な達成レベルの目安

- (i) 学習内容をおさえたうえで、授業を計画・設計することができる。
- (ii) ポートフォリオを用いて、学習内容を振り返ることができる。

⑥教科書

⑦参考図書・指定図書

文部科学省（2008）「中学校学習指導要領解説 保健体育編」
文部科学省（2009）「高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編」

⑧学習の到達目標とその評価の方法

具体的な学習到達目標	試験	小テスト	レポート	発表・実技	論文・作品	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		10		30		50	10	100
(i) 学習内容をおさえたうえで、授業を計画・設計することができる。		10		30			10	50
(ii) ポートフォリオを用いて、学習内容を振り返ることができる。						50		50

⑨担当教員からのメッセージ

保健体育科教員を目指す上での基本的なことを学習し、それらをより実践に近い形で身につけて行くことを目指します。共に学んでいきましょう。

⑩授業計画と学習課題

回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題(予習復習等)と時間(分)
1	オリエンテーション(授業の概要, 模擬授業, 授業評価について)		

2	保健教育や保健授業の在り方	参考図書・ ポートフォリオ	学習内容の復習	60
3	保健教育や保健授業の内容	参考図書・ ポートフォリオ	学習内容の復習	60
4	保健授業を設計する（保健授業設計能力の育成：本時指導案の作成方法）	参考図書・ ポートフォリオ	学習内容の復習と指導案の作成	60
5	保健授業を設計する（保健授業設計能力の育成：本時指導案の作成と教材研究）	参考図書・ ポートフォリオ	学習内容の復習と指導案の作成	60
6	模擬授業（1）（模擬授業実践とワークショップ型協議会）	参考図書・ ポートフォリオ	学習内容の復習と指導案の作成	60
7	模擬授業（2）（模擬授業実践とワークショップ型協議会）	参考図書・ ポートフォリオ	学習内容の復習と指導案の作成	60
8	学習課題と学習規律について	参考図書・ ポートフォリオ	学習内容の復習と指導案の作成	60
9	教師の発問の工夫、教師の位置取りの工夫	参考図書・ ポートフォリオ	学習内容の復習と指導案の作成	60
10	小集団の作り方と小集団内でのかかわらせ方	参考図書・ ポートフォリオ	学習内容の復習と指導案の作成	60
11	模擬授業（3）（模擬授業実践とワークショップ型協議会）	参考図書・ ポートフォリオ	学習内容の復習と指導案の作成	60
12	模擬授業（4）（模擬授業実践とワークショップ型協議会）	参考図書・ ポートフォリオ	学習内容の復習と指導案の作成	60
13	保健授業を振り返る（保健授業のアセスメントとリフレクション）	参考図書・ ポートフォリオ	学習内容の復習と指導案の作成	60
14	模擬授業（5）（模擬授業実践とワークショップ型協議会）	参考図書・ ポートフォリオ	学習内容の復習と指導案の作成	60
15	まとめとポートフォリオ・プレゼンテーション（定期試験）の説明	参考図書・ ポートフォリオ	ポートフォリオの整理	30

授業科目名	保健体育科教育法Ⅳ						
担当教員	前田 一篤	時 限					
授業区分	教職に関する科目（保健体育）	単位数	2	開講期	後期	対象学年	3年生以上
履修上の注意事項	中一種免「保健体育」：教職に関する科目（必修）						

①授業のねらい・概要

本授業は、中学校における保健体育科教師としてよい体育授業を実践するのに必要とされる、基本的な知識や技能、及び実践力を養うことを目的とする。とりわけ、体育理論の内容を取扱うこととする。

②教育目標とこの授業科目の関係

本授業は教育目標の全てと関連する。とりわけ、[2]「世界的視野と広く豊かな教養を有する人材を育成する」および[3]「現実的な知識と手法を備え、問題解決能力を持った人材を育成する」ことに深く関連し、保健体育科教員を目指すために必要な授業科目である。

③授業の進め方・指示事項

本授業は、講義による知識の補完と模擬授業による実践とを交えて進める。また、模擬授業の実践の他、講義の始めに実施する確認テストや、作成したポートフォリオによって総合的に評価していく。

④関連科目・履修しておくべき科目

履修しておくべき科目：保健体育科教育法Ⅰ・保健体育科教育法Ⅱ・保健体育科教育法Ⅲ

⑤標準的な達成レベルの目安

- (i) 学習内容をおさえたうえで、授業を計画・設計することができる。
- (ii) ポートフォリオを用いて、学習内容を振り返ることができる。

⑥教科書

⑦参考図書・指定図書

文部科学省（2008）「中学校学習指導要領解説 保健体育編」
 文部科学省（2009）「高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編」

⑧学習の到達目標とその評価の方法

具体的な学習到達目標	試験	小テスト	レポート	発表・実技	論文・作品	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		10		30		50	10	100
(i) 学習内容をおさえたうえで、授業を計画・設計することができる。		10		30			10	50
(ii) ポートフォリオを用いて、学習内容を振り返ることができる。						50		50

⑨担当教員からのメッセージ

保健体育教師を目指す上での基本的なことを学習し、それらをより実践に近い形で身につけて行くことを目指します。共に学んでいきましょう。

⑩授業計画と学習課題

回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題(予習復習等)と時間(分)
1	オリエンテーション(授業の概要, 模擬授業, 授業評価について)		

2	体育理論の授業の在り方	参考図書・ ポートフォリオ	学習内容の復習	60
3	体育理論の授業の内容	参考図書・ ポートフォリオ	学習内容の復習	60
4	体育理論の授業を設計する（本時指導案の作成方法）	参考図書・ ポートフォリオ	学習内容の復習と指導案の作成	60
5	体育理論の授業を設計する（指導案の作成と教材研究）	参考図書・ ポートフォリオ	学習内容の復習と指導案の作成	60
6	模擬授業（1）（模擬授業実践とワークショップ型協議会）	参考図書・ ポートフォリオ	学習内容の復習と指導案の作成	60
7	模擬授業（2）（模擬授業実践とワークショップ型協議会）	参考図書・ ポートフォリオ	学習内容の復習と指導案の作成	60
8	教材内容の工夫	参考図書・ ポートフォリオ	学習内容の復習と指導案の作成	60
9	教師の発問の工夫、教師の位置取りの工夫	参考図書・ ポートフォリオ	学習内容の復習と指導案の作成	60
10	小集団の作り方と小集団内でのかかわらせ方	参考図書・ ポートフォリオ	学習内容の復習と指導案の作成	60
11	模擬授業（3）（模擬授業実践とワークショップ型協議会）	参考図書・ ポートフォリオ	学習内容の復習と指導案の作成	60
12	模擬授業（4）（模擬授業実践とワークショップ型協議会）	参考図書・ ポートフォリオ	学習内容の復習と指導案の作成	60
13	保健授業を振り返る（保健授業のアセスメントとリフレクション）	参考図書・ ポートフォリオ	学習内容の復習と指導案の作成	60
14	模擬授業（5）（模擬授業実践とワークショップ型協議会）	参考図書・ ポートフォリオ	学習内容の復習と指導案の作成	60
15	まとめとポートフォリオ・プレゼンテーション（定期試験）の説明	参考図書・ ポートフォリオ	ポートフォリオの整理	30

授業科目名	教育実習基礎講座 I (a) (b)						
担当教員	兼重 宗和、渡部 明				時 限		
授業区分	教職に関する科目 (共通)	単位数	2	開講期	後期	対象学年	3年生以上
履修上の注意事項	教職に関する科目 (必修) 事前指導を含む						

①授業のねらい・概要

教育実習基礎講座は、大学で学んだ専門教科と教職関係科目で学習した理論研究を教育の現場 (中学校・高等学校) において実践できるようにその基礎を獲得することをねらいとする。よって、教壇実習を想定した教育実習の意義を明らかにするとともに、学級経営・教材研究の仕方や指導案の作成・指導法等を習得することをねらいとしている。また教育実習を終えた学生には、教壇実習等の改善計画と改善した計画に基づく研究授業ならびに研究協議会を行う。

②教育目標とこの授業科目の関係

教育実習基礎講座は、教育実習に備え教育目標の「主体性を持った意欲ある人材」で「世界的視野と広く豊かな教養を有する人材」であるとともに「現実的な知識と手法を備え、問題解決能力」が必要とされ、目標と当てはまる授業科目である。

③授業の進め方・指示事項

教育実習を想定し、受講生を教師役・生徒役、助言者、観察者に分けて行い、教師役の授業後に研究協議会を実施する。教育実習を終えた学生は、事後指導を行う。

④関連科目・履修しておくべき科目

履修しておくべき科目：教育方法・教科教育法

⑤標準的な達成レベルの目安

- (i) 教材研究を行い学習指導案の作成ができ、授業の展開ができる。
- (ii) 学級経営ができる。
- (iii) 授業を反省し、授業改善ができる。

⑥教科書

【学内販売】

教師養成会 編『教育実習の研究』学芸図書 (本体) 1,200円

⑦参考図書・指定図書

図書館教職資料コーナー

⑧学習の到達目標とその評価の方法

具体的な学習到達目標	試験	小テスト	レポート	発表・実技	論文・作品	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		10	30	10	50			100
(i) 学習指導案作成力			30					30
(ii) 授業展開・改善力		10		10	50			70

⑨担当教員からのメッセージ

率先して模擬授業をしましょう。

⑩授業計画と学習課題

回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題 (予習復習等) と時間 (分)
1	教育実習の意義と目的	教科書	教科書のP5～11を予習しておくこと 60
2	教育実習の展開 事前研究、教育実習の心得、実習の形態	教科書	教科書のP12～26を予習しておくこと 60

3	教育実習の内容 学級経営、学校組織、生徒理解、教育課程、 学習指導	教科書	教科書のP28～45を予習しておく こと	60
4	教育実習の内容 道徳・総合的な学習の時間・特別活動、 生徒指導と学級経営	教科書	教科書のP46～52を予習しておく こと	60
5	教育実習の内容 学校の施設と環境、教師としての勤務	教科書	教科書のP53～61を予習しておく こと	60
6	学習指導案の作成（中学校の教科） （第6～15回4年生の事前・後指導を含む）	教科書	予め学習指導案を作成すること	90
7	学習指導案の作成（高等学校の教科）	教科書	予め学習指導案を作成すること	90
8	研究授業及び研究協議会（中学校：社会科 を中心に）	社会科教科書	模擬授業用の学習指導案を作成し ておくこと	90
9	研究授業及び研究協議会（中学校：保健体 育科を中心に）	保健体育科教科書	模擬授業用の学習指導案を作成し ておくこと	90
10	研究授業及び研究協議会（高等学校：地理 歴史科を中心に）	地理歴史科教科書	模擬授業用の学習指導案を作成し ておくこと	90
11	研究授業及び研究協議会（高等学校：公民 科を中心に）	公民科教科書	模擬授業用の学習指導案を作成し ておくこと	90
12	研究授業及び研究協議会（高等学校：保健 体育科を中心に）	保健体育科教科書	模擬授業用の学習指導案を作成し ておくこと	90
13	研究授業及び研究協議会（高等学校：情報 科を中心に）	情報科教科書	模擬授業用の学習指導案を作成し ておくこと	90
14	研究授業及び研究協議会（高等学校：福祉 科を中心に）	福祉科教科書	模擬授業用の学習指導案を作成し ておくこと	90
15	研究授業及び研究協議会、 全体のふりかえり		授業の復習をすること	60

授業科目名	教育実習基礎講座Ⅱ						
担当教員	石橋 孝明、渡部 明				時 限		
授業区分	教職に関する科目 (共通)	単位数	2	開講期	前期	対象学年	4年生
履修上の注意事項	教職に関する科目 (必修)						

①授業のねらい・概要

教育実習に際しての心構え・準備をする。教壇実習を想定しながら研究授業ならびに研究協議会を行い、教師として最低限必要な実践的力量を育成する。そして、教育実習を終えた者には教壇実習を踏まえて、改善計画と、改善した計画に基づく研究授業ならびに研究協議会を行う (事前・事後指導を含む)。

②教育目標とこの授業科目の関係

教職必修であるこの授業科目を受講して教員を目指す者は、本学の教育目標 [1] 主体性を持った意欲ある人材 [2] 世界的視野と広く豊かな教養を有する人材 [3] 現実的な知識と手法を備え、問題解決能力を持った人材、であることが求められる。この授業科目は、本学の教育目標を体現できる人材を育成するよう教授する。

③授業の進め方・指示事項

教育実習での教壇実習を想定して、受講生を4つの役割 (教師役=授業者、生徒役、助言者、観察者) に分ける。そして教師役に研究授業を実施してもらい、その後に研究協議会 (反省会) を開催する。また、授業実施計画に関する作品を課す。

研究授業を実施した学生は、授業のできばえを評価する。また、研究授業に参加した学生は、積極的な参加態度を評価する。そして、規定の出席回数を満たさない場合、授業中の態度が悪い場合には、単位認定しない。

④関連科目・履修しておくべき科目

関連科目：教育実習Ⅰ，Ⅱ

履修しておくべき科目：教育実習基礎講座Ⅰ

⑤標準的な達成レベルの目安

(i) 学習指導案が書けるようになった。

(ii) 子どもの状況に合わせて授業を展開できるようになった。

(iii) 授業を反省し、授業の改善の方法を考えることができるようになった。

⑥教科書

⑦参考図書・指定図書

⑧学習の到達目標とその評価の方法

具体的な学習到達目標	試験	小テスト	レポート	発表・実技	論文・作品	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合				30	30		40	100
(i) 学習指導案の作成					30		10	40
(ii) 授業の展開				20			10	30
(iii) 授業の改善力				10			20	30

⑨担当教員からのメッセージ

研究授業を通して教師としての実践的な感覚を養いましょう。

⑩授業計画と学習課題

回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題 (予習復習等) と時間 (分)
1	オリエンテーション：実習の心構え・授業構成の理論と方法		指導案の作成・模擬授業の準備 45

2	実習の準備・心構え		指導案の作成・模擬授業の準備	90
3	研究授業および研究協議会（1） 教壇実習体験と授業改善（実習生A,B）		指導案の作成・模擬授業の準備・ 反省と改善	90
4	研究授業および研究協議会（2） 教壇実習体験と授業改善（実習生C,D）		指導案の作成・模擬授業の準備・ 反省と改善	90
5	研究授業および研究協議会（3） 教壇実習体験と授業改善（実習生E,F）		指導案の作成・模擬授業の準備・ 反省と改善	90
6	研究授業および研究協議会（4） 教壇実習体験と授業改善（実習生G,H）		指導案の作成・模擬授業の準備・ 反省と改善	90
7	研究授業および研究協議会（5） 教壇実習体験と授業改善（実習生I,J）		指導案の作成・模擬授業の準備・ 反省と改善	90
8	研究授業および研究協議会（6） 教壇実習体験と授業改善（実習生K,L）		指導案の作成・模擬授業の準備・ 反省と改善	90
9	研究授業および研究協議会（7） 教壇実習体験と授業改善（実習生M,N）		指導案の作成・模擬授業の準備・ 反省と改善	90
10	研究授業および研究協議会（8） 教壇実習体験と授業改善（実習生O,P）		指導案の作成・模擬授業の準備・ 反省と改善	90
11	研究授業および研究協議会（9） 教壇実習体験と授業改善（実習生Q,R）		指導案の作成・模擬授業の準備・ 反省と改善	90
12	研究授業および研究協議会（10） 教壇実習体験と授業改善（実習生S,T）		指導案の作成・模擬授業の準備・ 反省と改善	90
13	事前事後指導：教育実習の事後指導と3年 生の事前指導を行う（1）実習生前半		実習報告書の作成と発表準備	90
14	事前事後指導：教育実習の事後指導と3年 生の事前指導を行う（2）実習生後半		実習報告書の作成と発表準備	90
15	研究授業および研究協議会、全体の反省		振り返りと指導案の改善	90

授業科目名	教育実習 I						
担当教員	石橋 孝明、兼重 宗和、渡部 明				時 限		
授業区分	教職に関する科目 (共通)	単位数	2	開講期	集中	対象学年	4年生
履修上の注意事項	教職に関する科目 (必修) 事前・事後指導は、教育実習基礎講座で行う。						

①授業のねらい・概要

教育実習 I は、高等学校において今まで学んできた種々の教育理論を実際に適用する機会を提供するものである。これは、「理論の実践化」である。しかし、実際に現場に臨むと予想したように簡単なものではない。教育は、実際に体験して分かるものである。しかるに実際に教育実習を経験するということは、教育を学ぶものにとり重要な意味を持つ。

②教育目標とこの授業科目の関係

教育目標の「[1] 主体性を持った意欲ある人材を育成する [2] 世界的視野と広く豊かな教養を有する人材を育成する。[3] 現実的な知識と手法を備え、問題解決能力を持った人材を育成する。」とある全てに対し当てはまる必要な授業科目である。

③授業の進め方・指示事項

- ・高等学校の指示に従うこと。また実習で使用する教科書を用意しておくこと。
- ・実習開始前の事前指導、実習終了後の実習報告反省会には必ず出席すること。
- ・健康診断を受け、診断書を用意すること。

④関連科目・履修しておくべき科目

関連科目：教科に関する科目全て
履修しておくべき科目：教職に関する科目全て

⑤標準的な達成レベルの目安

教育にとって重要なのは教育者であり、特に教育者のもつ教育精神である。かくした教育精神は、生きた人間である生徒と相交わることによって初めて生まれてくるものである。教育実習においてこの教育精神の一端にふれることが目標の一つである。

教育実習は、社会の問題・政治の動向・人間関係などの諸条件を理解するための機会が与えられるものである。そして、これらの諸条件の中で教育すること、そこに教育の難しさと面白さがあることが理解することも目標となる。教育実習は、当然教育技術・内容・参観等の実践・向上は目標に含まれる。

⑥教科書

実習校使用教科書
教育実習ノート

⑦参考図書・指定図書

「高等学校学習指導要領」・各指導要領解説・各教科書・資料集・参考書等

⑧学習の到達目標とその評価の方法

具体的な学習到達目標	教職に対する自覚	生徒一人一人の価値の尊重	他者理解と自己変革	教材研究	授業展開	生徒の集団活動の把握と指導	事務実務能力	合計
評価割合	10	10	10	15	25	20	10	100

⑨担当教員からのメッセージ

教育実習現地指導の先生と連絡をとること。PDCAやハウレンソウを忘れずに。本学のEQ教育やキャリア教育を活かし教育実習をしましょう。

⑩授業計画と学習課題	
回数	授業の内容
	<p>教育実習の内容</p> <p>実習期間 高等学校（2週間）</p> <p>実習教科</p> <p>経済学部現代経済学科 高等学校公民科、地理歴史科</p> <p>経済学部ビジネス戦略学科 高等学校保健体育科、高等学校商業科</p> <p>福祉情報学部 高等学校福祉科、高等学校情報科</p> <p>1) 実習範囲 学習指導・生徒指導・学校経営・学級経営等の参観と実地指導</p> <p>2) 教壇実習 3時間以上を原則とする。</p> <p>※ 別添教育実習計画書を参照</p> <p>※ 事後指導は、「教育実習基礎講座Ⅰ」（第6回～15回内）でも行います。</p>

授業科目名	教育実習Ⅱ						
担当教員	石橋 孝明、兼重 宗和、渡部 明				時 限		
授業区分	教職に関する科目（共通）	単位数	2	開講期	集中	対象学年	4年生
履修上の注意事項	中一種免：教職に関する科目（必修） 事前・事後指導は、教育実習基礎講座で行う。						

①授業のねらい・概要

教育実習Ⅱは、中学校において今まで学んできた種々の教育理論を実際に適用する機会を提供するものである。これは、「理論の実践化」である。しかし、実際に適用するとなると予想したように簡単なものではない。教育というものは、やはり実際にやってみなければ、分かるものではないのである。しかるに実際に経験するという事は、教育を学ぶものにとり重要な意味を持つことになる。

②教育目標とこの授業科目の関係

教育目標の「[1] 主体性を持った意欲ある人材を育成する [2] 世界的視野と広く豊かな教養を有する人材を育成する。[3] 現実的な知識と手法を備え、問題解決能力を持った人材を育成する。」とある全てに対し当てはまる必要な授業科目である。

③授業の進め方・指示事項

- ・中学校の指示に従うこと。また実習で使用する教科書を用意しておくこと。
- ・実習開始前の事前指導、実習終了後の実習報告反省会には必ず出席すること。
- ・健康診断を受け、診断書を用意すること。

④関連科目・履修しておくべき科目

関連科目：教科に関する科目全て
履修しておくべき科目：教職に関する科目全て

⑤標準的な達成レベルの目安

教育にとって重要なのは教育者であり、特に教育者のもつ教育精神である。かくした教育精神は、生きた人間である生徒と相交わることによって初めて生まれてくるものである。教育実習においてこの教育精神の一端にふれることが目標の一つである。

教育実習は、社会の問題・政治の動向・人間関係などの諸条件を理解するための機会が与えられるものである。そして、これらの諸条件の中で教育すること、そこに教育の難しさや面白さがあることが理解することも目標となる。教育実習は、当然教育技術・内容・参観等の実践・向上は目標に含まれる。

⑥教科書

実習校使用教科書
教育実習ノート

⑦参考図書・指定図書

中学校学習指導要領・各指導要領解説・各教科書・資料集・参考書等

⑧学習の到達目標とその評価の方法

具体的な学習到達目標	教職に対する自覚	生徒一人一人の価値の尊重	他者理解と自己変革	教材研究	授業展開	生徒の集団活動の把握と指導	事務実務能力	合計
評価割合	10	10	10	15	25	20	10	100

⑨担当教員からのメッセージ

教育実習現地指導の先生と連絡をとること。PDCAやハウレンソウを忘れずに。
本学のEQ教育やキャリア教育を活かし教育実習をしましょう。

⑩授業計画と学習課題	
回数	授業の内容
	教育実習の内容 実習期間 中学校 4週間（又は3週間120時間以上） 実習教科 経済学部現代経済学科……中学校社会科 経済学部ビジネス戦略学科……中学校保健体育科 1) 実習範囲 学習指導・生徒指導・学校経営・学級経営等の参観と実地指導 2) 教壇実習 3時間以上を原則とする。 ※ 別添教育実習計画書を参照 ※ 事後指導は、「教育実習基礎講座Ⅰ」（第6回～15回内）でも行います。

授業科目名	教職実践演習						
担当教員	石橋 孝明、兼重 宗和、渡部 明	時 限					
授業区分	教職に関する科目 (共通)	単位数	2	開講期	後期	対象学年	4年生
履修上の注意事項	教職に関する科目 (必修)						

①授業のねらい・概要

中学校や高等学校の教育現場で求められる教育実践力の向上を目指し、教育現場における具体的問題についての討議や、模擬授業を実施する。模擬授業においては他の受講生の批評を含めた研究協議の場を設け、教職実践力の習熟状況について検討する。実際には「履修カルテ」(学生の履修履歴)や、学外での教育活動実績を総合的に吟味し、各教科の指導力のもとより、教員としての使命感や職業倫理、また学級経営や学校運営についての理解を深める。

②教育目標とこの授業科目の関係

教職必修であるこの授業科目を受講して教員を目指す者は、本学の教育目標 [1] 主体性を持った意欲ある人材 [2] 世界的視野と広く豊かな教養を有する人材 [3] 現実的な知識と手法を備え、問題解決能力を持った人材、であることが求められる。この授業科目は、本学の教育目標を体現できる人材を育成するよう教授する。

③授業の進め方・指示事項

教員の連携・協力体制

担当教員は教育実習指導担当者である。連携・協力体制として、他の教職専門及び教科に関する科目の担当教員とともに構成する教職課程委員会が本科目の企画・運営に協力し、学生の習熟度に応じた講義外での指導も行う。その際、上記の教職課程委員会の教員は、各学生の「履修カルテ」を参照しながら補完的な指導を適宜行う。更に模擬授業においては教科教育法の担当教員、現職の教員(教員勤務経験者を含む)の協力を得る。またフィールドワークは、教育委員会および各学校の協力を得て実施する。

授業の指導案作成・模擬授業は、担当者の主導の基に教科に関する科目または教職専門の担当教員が模擬授業の前後において学生に対する指導・コメントを行う。

④関連科目・履修しておくべき科目

関連科目：教職と教科に関する科目

履修しておくべき科目：教育実習基礎講座Ⅰ・Ⅱ、教育実習Ⅰ・Ⅱ

⑤標準的な達成レベルの目安

「履修カルテ」に基づいて教職履修者の基礎的力量的のうち不十分な点を補う。

(i) 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項

- 教育に対する使命感や情熱を持ち、常に生徒から学び共に成長しようとする姿勢が身に付いている。
- 高い倫理観と規範意識、困難に立ち向かう強い意志を持ち、自己の職責を果たすことができる。
- 生徒の成長や安全、健康を第一に考え、適切に行動することができる。

(ii) 社会性や対人関係能力に関する事項

- 教員としての職責や義務の自覚に基づき、目的や状況に応じた適切な言動をとることができる。
- 組織の一員としての自覚を持ち、他の教職員と協力して職務を遂行することができる。
- 保護者や地域の関係者と良好な人間関係を築くことができる。

(iii) 生徒理解や学級経営等に関する事項

- 生徒に対して公平かつ受容的な態度で接し、豊かな人間的交流を行うことができる。
- 生徒の発達や心身の状況に応じて、抱える課題を理解し、適切な指導を行うことができる。
- 生徒との間に信頼関係を築き、学級集団を把握して、規律ある学級経営を行うことができる。

(iv) 教科内容等の指導力に関する事項

- 教科書の内容を理解しているなど、学習指導の基本的事項(教科等の知識や技能など)を身に付けている。
- 板書、話し方、表情など授業を行う上での基本的な表現力を身に付けている。
- 生徒の反応や学習の定着状況に応じて、授業計画や学習形態等を工夫することができる。

⑥教科書

「履修カルテ」・実習で使った教科書・実習ノート・介護等体験日誌レポート等を使用する。

⑦参考図書・指定図書

⑧学習の到達目標とその評価の方法								
具体的な学習到達目標	試験	小テスト	レポート	発表・実技	論文・作品	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			10	45	30		15	100
(i) 使命感・責任感・教育的愛情			5				15	20
(ii) 社会性・対人関係能力			5	15				20
(iii) 生徒理解・学級経営等				15	15			30
(iv) 教科内容等の指導力				15	15			30

⑨担当教員からのメッセージ
<p>教員としての習熟度に対する評価が中心となる授業です。教員として最小限必要な資質能力が身についているかを確認し、その成果を教職課程委員会に報告しますので、教員になるための集大成の科目として取り組みましょう。</p>

⑩授業計画と学習課題				
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題(予習復習等)と時間(分)	
1	オリエンテーションと安全管理・生徒理解: 教職実践演習の意義や目的について説明し、講義の全過程の説明をする。また、学校において、校外学習時の安全管理や、休み時間や放課後の補充指導、課外活動など、生徒と直接関わり合う活動の体験を通じて、生徒理解の重要性や教員が担う責任の重さを理解しているか確認する。	PC 教育実習日誌	「教職カルテ」により教師としての力量・資質をチェック。教育実習評価表により、各自、改善すべき点を確認し、その対策をする。また、実習日誌に基づいて、教育実習時の体験を文書にする。	
2	教職の使命・責任感、教育的愛情: 現職教員(教員勤務経験者を含む)との意見交換等を通じて、教職の意義・使命感や教員の役割、職務内容における責任感、生徒に対する教育的愛情等を理解しているか確認する。(外部講師予定)		教職の使命等の意見をまとめ、意見交換の準備をする。そして、意見交換等において得たこと、気づいたことをレポートにする。	
3	教職の使命・責任感、教育的愛情: 現職教員(教員勤務経験者を含む)との意見交換等を通じて、教職の意義・使命感や教員の役割、職務内容における責任感、生徒に対する教育的愛情等を理解しているか確認する。		教職の使命等の意見をまとめ、意見交換の準備をする。そして、意見交換等において得たこと、気づいたことをレポートにする。	
4	社会性・対人関係能力: 役割演技(ロールプレイング)や事例研究等を通じて、社会人としての基本(社会性:挨拶、言葉遣いなど)や対人関係能力が身についているか、また、教員組織における自己の役割や他の教職員と協力した校務運営の重要性を理解しているか確認する。		ロールプレイングの役割を定め、議題等の準備をする。ロールプレイングの成果等の反省。	
5	実務実習と現地調査: 関連施設・関連機関(社会福祉施設、特別支援学校・学校等)における実務実習や現地調査(フィールドワーク)等を通じて、社会人としての基本(挨拶や言葉遣いなど)身につけているか、また、保護者や地域との連携・協力の重要性を理解しているか確認する。		学校での授業参観等を通じて得たことをレポートにまとめる。	

6	学級経営・生徒理解（1） ：教育実習等の経験を基に、学級経営案を作成し、実際の事例との比較等を通じて、学級担任の役割や学級経営の実務と生徒理解、他の教職員との協力の在り方等を修得しているか確認する。		教育実習日誌に基づき学級経営案を作成。また、学級経営の一手法としての学級通信を作成する。	90
7	学級経営・生徒理解（2） ：学級通信を基にグループディスカッションをし、評価点と改善点を指摘し改善する。		学級経営案と学級通信の改善。	90
8	生徒指導研究 ：いじめや不登校、特別支援教育等、今日的な教育課題に関する事例研究等を通じて、個々の生徒の特性や状況に応じた対応を修得しているか確認する。		事例研究によるレポート作成。	90
9	役割演技（ロールプレイング）事例研究等（1） ：役割演技（ロールプレイング）や事例研究等を通じて、個々の生徒の特性や状況を把握し、生徒を一つの学級集団としてまとめていく手法を身につけているか確認する。		生徒を一つの学級集団としてまとめていくには何が必要か論点をまとめてくる。	90
10	役割演技（ロールプレイング）事例研究等（2）		生徒を一つの学級集団としてまとめていく手法の論点整理。	90
11	学習指導案作成（1） ：模擬授業の実施を通じて、教員としての表現力や授業力、生徒の反応を活かした授業づくり、皆で協力して取り組む姿勢を育む指導法等を身につけているか確認する。	実習使用教科書と作成学習指導案 PC	教育実習で作成した学習指導案の改善。	90
12	学習指導案作成（2） ：代表者による模擬授業を通して確認。		学習指導案の改善。	90
13	模擬授業（1） ：教科書にある題材や単元等に応じた教材研究の実施や、教材・教具、学習形態、指導と評価等を工夫した学習指導案の作成を通じて、学習指導の基本的事項（教科等の知識技能など）を身につけているか確認する（教科に関する科目又は教職専門科目担当教員が模擬授業外でも適宜指導・コメントを加える）。		学習指導の基本的事項（教科等の知識技能など）の総点検。	90
14	模擬授業（2） ：代表者による模擬授業。		学習指導の基本的事項（教科等の知識技能など）の総点検。	90
15	まとめ ：各自、教育実践力について省察し文書を作成する。履修カルテに記載し、最終確認をする。	PC	教員として最小限必要な資質能力が身につけているかを確認する。	90

授業科目名	職業指導Ⅰ						
担当教員	坂本 勲			時 限			
授業区分	教科に関する科目（商業）	単位数	2	開講期	前期	対象学年	3年生以上
履修上の注意事項	高一種免「商業」：教科に関する科目（必修）						

①授業のねらい・概要

進路指導を行うために必要な広範囲な知識の習得と進路指導の具体的な方法を学ぶことが授業の狙いです。授業で学ぶ項目は、①職業指導の歴史、基礎理論・理念、②進路指導の活動概要、組織、計画、③キャリア・カウンセリング、④進学相談、公務員試験の進路指導等です。

②教育目標とこの授業科目の関係

本学の教育目標である「現実的な知識と手法を備え、問題解決能力を持った人材を育成する」ための授業科目です。また経済学部のディプロマ・ポリシーである「社会人として必要となる基礎知識や、専門分野での学習に必要となる基礎知識と技法を身につけること」、「情報の収集や活用に必要な十分な情報処理能力を持つこと」を達成するための授業科目です。

③授業の進め方・指示事項

講義を中心に授業を行う。各授業の後半以降に演習、ディスカッション、PCによる情報検索等を行う場合がある。PC等の持参物については各授業内にて指示を行う。

④関連科目・履修しておくべき科目

関連科目：キャリアプランニングⅢ

履修しておくべき科目：キャリアプランニングⅠ、Ⅱ

⑤標準的な達成レベルの目安

- (i) 職業指導の歴史、理論について理解している。
- (ii) 進路指導の活動内容、組織、実施計画について理解している。
- (iii) キャリア・カウンセリングについての理論や方法について理解している。

⑥教科書

特に定めない。毎回プリント等の資料を配布する。

⑦参考図書・指定図書

『進路指導・キャリア教育の理論と実践』吉田辰雄、篠翰（編）2008 日本文化科学社

『学校から職業への迷走－若年者雇用保障と職業教育・訓練』中野育男（編）2003 専修大学出版局

⑧学習の到達目標とその評価の方法

具体的な学習到達目標	試験	小テスト	レポート	発表・実技	論文・作品	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	40		40				20	100
(i) 職業指導の歴史、理論	15		15					30
(ii) 進路指導の活動内容、組織、実施計画	15		15					30
(iii) キャリア・カウンセリングの理論と方法	10		10					20
(iv) 授業態度							20	20

⑨担当教員からのメッセージ

教員としての進路指導の知識と方法を学ぶと同時に、自分自身の進路、職業選択、キャリア・パスについて考えるチャンスと捉え、しっかり学んでください。

⑩授業計画と学習課題				
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題(予習復習等)と時間(分)	
1	オリエンテーション		配布資料の復習	30
2	職業指導の歴史と展開		配布資料の復習	60
3	職業指導の基礎理論		配布資料の復習	60
4	職業指導の基礎理念		配布資料の復習	60
5	進路指導の諸活動		配布資料の復習	60
6	進路指導の組織と運営		配布資料の復習	60
7	進路指導の計画と実践①		配布資料の復習	60
8	進路指導の計画と実践②		配布資料の復習	60
9	学校と家庭、地域等との連携		配布資料の復習	60
10	キャリア・カウンセリングの理論と活用		配布資料の復習	60
11	進路指導のアセスメント		配布資料の復習	60
12	産業界における職業指導		配布資料の復習	60
13	進路指導の実践①		配布資料の復習	60
14	進路指導の実践②		配布資料の復習	60
15	全体のまとめ、職業指導Ⅱの案内		配布資料の復習	60

授業科目名	職業指導Ⅱ						
担当教員	坂本 勲			時 限			
授業区分	教科に関する科目 (商業)	単位数	2	開講期	後期	対象学年	3年生以上
履修上の注意事項	高一種免「商業」：教科に関する科目 (必修)						

①授業のねらい・概要

進路指導を行うための実践的な知識と方法を学ぶことが授業の狙いです。授業で学ぶ項目は、①職業選択を行うための業界・職種・企業の研究及び研究発表。②職業活動を行う学生を指導するためのビジネス文書、マナー、面接指導。③キャリア・カウンセリング演習等です。

②教育目標とこの授業科目の関係

本学の教育目標である「現実的な知識と手法を備え、問題解決能力を持った人材を育成する」ための授業科目です。また経済学部のディプロマ・ポリシーである「社会人として必要となる基礎知識や、専門分野での学習に必要な基礎知識と技法を身につけること」、「情報の収集や活用に必要な十分な情報処理能力を持つこと」を達成するための授業科目です。

③授業の進め方・指示事項

授業は講義、演習、発表等の形式で行う。情報検索や文書作成等のためPCを多く使用するので忘れないように持参すること。進路指導の技術を習得するための発表やロールプレイングを実施するので積極的な授業参加を求める。

④関連科目・履修しておくべき科目

関連科目：キャリアプランニングⅢ

履修しておくべき科目：生徒指導論、教育相談Ⅰ、キャリアプランニングⅠ、Ⅱ

⑤標準的な達成レベルの目安

- (i) 広範囲な業界・職種についての知識がある。
- (ii) 職業選択のための企業分析の方法を習得している。
- (iii) ビジネス文書、マナー、試験対策について指導ができる。

⑥教科書

特に定めない。毎回プリント等の資料を配布する。

⑦参考図書・指定図書

『進路指導・キャリア教育の理論と実践』吉田辰雄、篠翰（編） 2008 日本文化科学社

『学校から職業への迷走－若年者雇用保障と職業教育・訓練』中野育男（編）2003 専修大学出版局

『業界と職種がわかる本'15年版』岸健二（編） 2013 成美堂出版

⑧学習の到達目標とその評価の方法

具体的な学習到達目標	試験	小テスト	レポート	発表・実技	論文・作品	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			30	50			20	100
(i) 業界・職種の知識			15	5				20
(ii) 企業分析			15	5				20
(iii) キャリア・カウンセリング演習、ビジネス・マナー・面接試験指導				40				40
(iv) 授業態度							20	20

⑨担当教員からのメッセージ

教員として進路指導を行うためには業界や職種の広範囲な知識や就活に必要なビジネス・マナー、筆記試験、面接試験等に対する知識が必要です。この授業を通して進路指導を行うための広い知識と実践力を身につけてください。

⑩授業計画と学習課題				
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題(予習復習等)と時間(分)	
1	オリエンテーション 職業選択の方法① 業界研究		配布資料の復習	30
2	職業選択の方法② 業界・職種研究		配布資料の復習	60
3	職業選択の方法③ 企業研究	PC	配布資料の復習	60
4	職業選択の方法④ 企業研究演習	PC	発表資料の作成	120
5	職業選択の方法⑤ 企業研究演習	PC	発表資料の作成	120
6	職業活動と職業指導① ビジネス文書(1)	PC	課題資料の作成	90
7	職業活動と職業指導② ビジネス文書(2)	PC	課題資料の作成	90
8	職業選択の方法⑥ 企業研究発表		配布資料の復習	60
9	職業選択の方法⑦ 企業研究発表		配布資料の復習	60
10	キャリア・カウンセリング演習 ロール・プレイング		ロールプレイングの練習	60
11	職業活動と職業指導③ ビジネス・マナー(1)		ロールプレイングの練習	60
12	職業活動と職業指導④ ビジネス・マナー(2)		ロールプレイングの練習	60
13	職業活動と職業指導⑤ 面接試験(1)		ロールプレイングの練習	60
14	職業活動と職業指導⑥ 面接試験(2)		ロールプレイングの練習	60
15	キャリアパスと資格、全体のまとめ		配布資料の復習	60

授業科目名	器械運動						
担当教員	前田 一篤	時 限					
授業区分	教科に関する科目（保健体育）	単位数	2	開講期	通年	対象学年	1年生以上
履修上の注意事項	中・高一種免「保健体育」：教科に関する科目（選択必修）						

①授業のねらい・概要

器械運動（主にマット・跳び箱）に必要とされる知識・技術を習得するとともに、指導法や補助法について理解し、実践が出来るようになる事を目的とする。

講義の前半は、器械運動における各種目の技術を段階的・系統的に学習し習得し、それらの技の補助法・指導法についても学んでいく。講義の中盤には、それぞれの技を組み合わせた連続技の試技によって、技能の定着を確認する。講義の後半は、グループ活動を通して集団演技を構成し、発表する場を設ける。本講義を通して、保健体育教師として、器械運動を指導する際の示範力や指導するための知識・技能を獲得することが期待される。

②教育目標とこの授業科目の関係

本授業は教育目標の全てと関連する。とりわけ、保健体育科教員として〔3〕「現実的な知識と手法を備え、問題解決能力を持った人材を育成する」ために必要な授業科目である。

③授業の進め方・指示事項

器械運動（主にマット・跳び箱）の知識や技能、指導方、補助法について実践を通して学習を進める。さらに、グループ演技の発表を行う。自己の能力を高める為、各自の目標や課題を確認し、各技能の習得に努め、技を完成させた時の達成感や出来栄に喜びを味わうとともに、協力し合いながら授業を進めることが出来るよう積極的に取り組んでほしい。

④関連科目・履修しておくべき科目

⑤標準的な達成レベルの目安

- (i) 器械・器具を点検し、安全に留意して練習や指導が出来るようになる。
- (ii) 器械運動（主にマット・跳び箱）における知識と技術を身につけ、技が円滑にできるようになる。
- (iii) グループ活動を通して、積極的かつ協同的な姿勢で取り組むことが出来るようになる。

⑥教科書

⑦参考図書・指定図書

高橋健夫・三木四郎・長野淳次郎 ほか（1992）器械運動の授業づくり、大修館書店
 文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編』平成20年度版
 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編』平成21年度版

⑧学習の到達目標とその評価の方法

具体的な学習到達目標	試験	小テスト	レポート	発表・実技	論文・作品	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合				70			30	100
(i) 器械・器具を点検し、安全に留意して練習や指導が出来るようになる。							20	20
(ii) 器械運動（主にマット・跳び箱）における知識と技術を身につけ、技が円滑にできるようになる。				50				50
(iii) グループ活動を通して、積極的かつ協同的な姿勢で取り組むことが出来るようになる。				20			10	30

--	--	--	--	--	--	--	--	--

⑨担当教員からのメッセージ

教員養成講座の実技科目である為、出席および授業態度を重要視し、熱意を持って積極的かつ協同的に取り組める学生を強く望みます。器械運動の確実な指導ができるよう、しっかりと技能を身につけていきましょう。

⑩授業計画と学習課題

回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題(予習復習等)と時間(分)
1	オリエンテーション(本授業の概要, 授業の分担決めとグループ分け)		自身の課題とされる技能に当たる箇所を確認する。 30
2	各種目(マット・跳び箱)に分かれてグループ練習(難易度Aの技術習得)	参考図書	自身の課題とされる技能に当たる箇所を確認する。 30
3	各種目(マット・跳び箱)に分かれてグループ練習(難易度Bの技術習得)	参考図書	自身の課題とされる技能に当たる箇所を確認する。 30
4	各種目(マット・跳び箱)に分かれてグループ練習(難易度Bの技術習得)	参考図書	自身の課題とされる技能に当たる箇所を確認する。 30
5	各種目(マット・跳び箱)に分かれてグループ練習(難易度Cの技術習得)	参考図書	自身の課題とされる技能に当たる箇所を確認する。 30
6	各種目(マット・跳び箱)に分かれてグループ練習(難易度Cの技術習得)	参考図書	自身の課題とされる技能に当たる箇所を確認する。 30
7	各種目(マット・跳び箱)に分かれてグループ練習(難易度Dの技術習得)	参考図書	自身の課題とされる技能に当たる箇所を確認する。 30
8	各種目(マット・跳び箱)に分かれてグループ練習(難易度Dの技術習得)	参考図書	自身の課題とされる技能に当たる箇所を確認する。 30
9	規定技の試技および連続技の練習連続技の練習	参考図書	自身の課題とされる技能に当たる箇所を確認する。 30
10	規定技の試技および連続技の練習連続技の練習	参考図書	自身の課題とされる技能に当たる箇所を確認する。 30
11	連続技の練習	参考図書	自身の課題とされる技能に当たる箇所を確認する。 30
12	連続技の練習	参考図書	自身の課題とされる技能に当たる箇所を確認する。 30
13	連続技の練習	参考図書	自身の課題とされる技能に当たる箇所を確認する。 30
14	連続技の発表会(マット)	参考図書	自身の課題とされる技能に当たる箇所を確認する。 30
15	連続技の発表会(平均台)	参考図書	自身の課題とされる技能に当たる箇所を確認する。 30
16	オリエンテーション(グループ演技の概要, グループ分けについて)	参考図書	
17	グループ練習1(難易度Aの技術の振り返りと練習)	参考図書	自身の課題とされる技能に当たる箇所を確認する。 30
18	グループ練習2(難易度Bの技術の振り返りと練習)	参考図書	自身の課題とされる技能に当たる箇所を確認する。 30
19	グループ練習3(難易度Cの技術の振り返りと練習)	参考図書	自身の課題とされる技能に当たる箇所を確認する。 30
20	グループ練習4(難易度Dの技術の振り返りと練習)	参考図書	自身の課題とされる技能に当たる箇所を確認する。 30
21	グループ練習5(連続技の振り返りと練習)	参考図書	自身の課題とされる技能に当たる箇所を確認する。 30

22	グループ練習6 (集団演技の練習)	参考図書	グループ別に演技の構成・練習を行う。	60
23	グループ練習7 (集団演技の練習)	参考図書	グループ別に演技の構成・練習を行う。	60
24	グループ練習8 (集団演技の練習)	参考図書	グループ別に演技の構成・練習を行う。	60
25	グループ練習9 (集団演技の練習)	参考図書	グループ別に演技の構成・練習を行う。	60
26	グループ練習10 (集団演技の練習)	参考図書	グループ別に演技の構成・練習を行う。	60
27	グループ練習11 (集団演技の練習)	参考図書	グループ別に演技の構成・練習を行う。	60
28	グループ練習12 (集団演技の練習)	参考図書	グループ別に演技の構成・練習を行う。	60
29	集団演技の発表会 (実技試験)	参考図書		
30	集団演技の発表会 (実技試験)	参考図書		

授業科目名	ダンス						
担当教員	櫛田 芳美			時 限			
授業区分	教科に関する科目（保健体育）	単位数	2	開講期	前期・集中	対象学年	2年生以上
履修上の注意事項	中・高一種免「保健体育」：教科に関する科目（選択必修）						

①授業のねらい・概要

ダンスは「踊る」ことによる自己内面の表出・表現であり、「創る」「観る」ことにより形式をもって伝達される非言語的コミュニケーションである。また、リズムにのるという人間の根源的な欲求を充足するものでもある。リズムにのって自分らしいダンスを探求し、楽しくコミュニケーションをはかりながら、互いの表現のよさや個性を認め合う態度を形成していく。

②教育目標とこの授業科目の関係

保健体育科の目標は、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てること、とされる。ダンスの楽しさや喜びを味わえるよう基本的な技能や知識を身に付け、生涯にわたってダンスに親しむ資質・能力を育成する。

[1] 主体性を持った意欲ある人材を育成する。

[2] 現実的な知識と手法を備え、問題解決能力を持った人材を育成する。

③授業の進め方・指示事項

ダンスの学習指導内容に関しては講義を中心に理解を深める。

技能の習得、表現方法の学習に関するDVDを参考資料として使用する。

現代的リズムのダンスで使用する音楽はリクエスト曲に応じる。

服装は動きやすく通気性のあるものが望ましい。必要に応じて着替えを持参する。

ダンスシューズまたは体育館シューズを使用し、水分、タオルを持参する。

④関連科目・履修しておくべき科目

なし

⑤標準的な達成レベルの目安

(i) リズムにのることやダンスステップの基本を習得する。

(ii) 相互に身体表現を引き出し合い自由に表現できる。

(iii) ダンス・表現に簡単な形式をつけて発表・鑑賞できる。

⑥教科書

全国ダンス・表現運動授業研究会 編『明日からトライ ダンス授業』大修館 2,200円+税（学内販売）

⑦参考図書・指定図書

⑧学習の到達目標とその評価の方法

具体的な学習到達目標	試験	小テスト	レポート	発表・実技	論文・作品	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			20	50			30	100
(i) 知識を取り込む力			10	10				20
(ii) 発表・表現・伝達				40				40
(iii) 学習に取り組む姿勢			10				30	40

⑨担当教員からのメッセージ

⑩授業計画と学習課題				
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題(予習復習等)と時間(分)	
1	ガイダンス 授業の進め方、ダンスの必修化について	教科書	学習指導の基礎・基本の理解	30
2	ダンスの学習指導 1 創作ダンスについて	教科書	中学校学習指導要領の理解	30
3	ダンスの学習指導 2 現代的なリズムのダンスについて	教科書	中学校学習指導要領の理解	30
4	ダンスの学習指導 3 フォークダンスについて	教科書	中学校学習指導要領の理解	30
5	リズムダンス 1 ペア・ソロパート	教科書	ペアダンスの復習	30
6	リズムダンス 2 ユニゾン(群舞)パート	教科書	ユニゾンダンスの復習	30
7	リズムダンス 3 全体での創作パート、完成へ	教科書	創作パートの構想	30
8	外国のフォークダンス 1 ミザルー、マイム・マイム、トロイカ等	教科書	フォークダンスの理解	30
9	外国のフォークダンス 2 バージニアリール、ドードレブスカポルカ	教科書	フォークダンスの復習	30
10	日本の民踊 1 ソーラン節	教科書	ソーラン節の復習	30
11	日本の民踊 2 出身地の民踊について調べる	教科書	出身地民踊のレポート作成	60
12	日本の民踊 3 出身地の民踊発表会	教科書	出身地民踊のレポート作成・提出	60
13	創作ダンス 1 日常の動きからダンスへ	教科書	創作ダンスへの導入の理解	30
14	創作ダンス 2 遊び・ゲームからダンスへ	教科書	創作ダンスへの導入の復習	30
15	創作ダンス 3 身体表現を引き出す手立て	教科書	表現学習に関する知識の復習	30
16	創作ダンス 4 ペアの表現	教科書	ペアの表現復習	30
17	創作ダンス 5 群の表現	教科書	群の表現復習	30
18	創作ダンス 6 グループ作品制作①形式	教科書	グループ創作案レポート作成	60
19	創作ダンス 7 グループ作品制作②練習	教科書	グループ創作過程レポート作成	60
20	創作ダンス 8 作品発表・鑑賞	教科書	作品発表・鑑賞レポート提出	30
21	ヒップホップ 1 日常動作をリズムで表現	教科書	日常動作をオノマトペ(擬態語・擬音語)で表す	30
22	ヒップホップ 2 リズムののり方、アップダウンのリズム	教科書	ヒップホップのリズム復習	30
23	ヒップホップ 3 基本ステップ①ウエーブ、ポップコーン等	教科書	ヒップホップ基本ステップ復習	30
24	ヒップホップ 4 基本ステップ②クラブ、ロジャーラビット等	教科書	ヒップホップ基本ステップ復習	30

25	ヒップホップ5 基本ステップ③ケンケンパー	教科書	ヒップホップ基本ステップ復習	30
26	ヒップホップ6 課題振付の習得①	教科書	課題振付ダンス復習	30
27	ヒップホップ7 課題振付の練習②	教科書	課題振付ダンス復習	30
28	ヒップホップ8 グループ作品制作①形式	教科書	グループ制作レポート作成	60
29	ヒップホップ9 グループ作品制作②練習	教科書	グループ制作レポート提出	30
30	ヒップホップ10 作品発表・鑑賞	教科書	作品発表・鑑賞レポート提出	30

授業科目名	柔道						
担当教員	吉岡 剛			時 限			
授業区分	教科に関する科目（保健体育）	単位数	2	開講期	通年	対象学年	2年生以上
履修上の注意事項	中・高一種免「保健体育」：教科に関する科目（選択必修）						

①授業のねらい・概要

柔道に必要とされる高度な専門的知識・技能・ルール・トレーニング法を理解し実践できるようになることを目的とする。また教職を志す者として、柔道指導法・審判法が行えるようにする。自分ができるだけでなく指導出来るところを目指す。

②教育目標とこの授業科目の関係

教育目標とりわけ〔3〕「現実的な知識と手法を備え問題解決能力を持った人材を育成する」に必要な授業科目である。ディプロマポリシーのうち総合教育〔1〕（a）「専門分野での学習に必要な基礎知識と技法を身につける」とも直接関連した科目である。

③授業の進め方・指示事項

柔道の実践と指導方法の技能を体得するために実技中心で行う。加えて伝統的な行動に留意して、互いに尊重し、試合が出来るようにするとともに、審判方法を学び、勝敗に対して公正な態度が取れるようにする。

- ・柔道着は各自で用意する。（購入希望者は最初の講義で受けつける）
- ・第二記念館・柔道場で行う。

④関連科目・履修しておくべき科目

関連科目：なし

履修しておくべき科目：なし

⑤標準的な達成レベルの目安

- (i) 柔道の伝統的な礼儀作法や理念を理解し説明出来るようになる。
- (ii) 基本動作（姿勢・組手・崩し・受身）や对人的技能（投技・固技・連絡変化・防御）を身につけ指導できるようになる。
- (iii) 安全に留意し試合における審判を理解し行えるようになる。

⑥教科書

教科書：なし

⑦参考図書・指定図書

参考図書：なし

⑧学習の到達目標とその評価の方法

具体的な学習到達目標	試験	小テスト	レポート	発表・実技	論文・作品	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		10		20		20	50	100
(i) 柔道の知識習得		10				5	5	20
(ii) 柔道の技術習得				15		5	5	25
(iii) 取り組む姿勢				5		10	40	55

⑨担当教員からのメッセージ

真剣かつ楽しく

⑩授業計画と学習課題

回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題（予習復習等）と時間（分）
1	オリエンテーション （内容説明・心構え・柔道衣打ち合わせ）		柔道を行う為、安全の心構えとして爪を切っておく。装飾品を外す。
2	柔道の歴史・理念・礼法	柔道衣	柔道の歴史・理念を調べてみる。

3	姿勢・組手・崩し・歩き方	柔道衣	復習して理解を深める	30
4	受身①（後受身）	柔道衣	復習して理解を深める	60
5	受身②（横受身・前受身）	柔道衣	復習して理解を深める	60
6	受身③（前方回転受身①）	柔道衣	復習して理解を深める	60
7	受身④（前方回転受身②）	柔道衣	復習して理解を深める	60
8	立技①（出足払・送足払）	柔道衣	復習して理解を深める	60
9	立技②（小内刈・大外刈）	柔道衣	復習して理解を深める	60
10	立技③（膝車・支釣込足）	柔道衣	復習して理解を深める	60
11	立技④（大外刈・内股）	柔道衣	復習して理解を深める	60
12	立技⑤（背負投・体落）	柔道衣	復習して理解を深める	60
13	立技⑥（大腰・釣込腰）	柔道衣	復習して理解を深める	60
14	打込み練習	柔道衣	復習して理解を深める	60
15	技能テスト（受身）	柔道衣	受身を復習して準備する	60
16	立技連絡技（小内刈から大内刈）	柔道衣	復習して理解を深める	60
17	立技連絡技（大内刈から大外刈）	柔道衣	復習して理解を深める	60
18	立技乱取り①	柔道衣	体調を整え安全の心構えを確認する	30
19	立技乱取り②	柔道衣	体調を整え安全の心構えを確認する	30
20	寝技トレーニング法	柔道衣	復習して理解を深める	60
21	寝技①（袈裟固）	柔道衣	復習して理解を深める	60
22	寝技②（横四方固・上四方固）	柔道衣	復習して理解を深める	60
23	寝技③（縦四方固・肩固）	柔道衣	復習して理解を深める	60
24	寝技乱取り①	柔道衣	体調を整え安全の心構えを確認する	30
25	寝技乱取り②	柔道衣	体調を整え安全の心構えを確認する	30
26	審判法研究	柔道衣	復習して理解を深める	60
27	試合①（模擬授業・審判実技）	柔道衣	体調を整え安全の心構えを確認する。審判法を復習しておく。	60
28	試合②（模擬授業・審判実技）	柔道衣	体調を整え安全の心構えを確認する。審判法を復習しておく。	60
29	試合③（模擬授業・審判実技）	柔道衣	体調を整え安全の心構えを確認する。審判法を復習しておく。	60
30	技能テスト（立技）	柔道衣	課題を復習しておく	60

授業科目名	剣道						
担当教員	榊 康守			時 限			
授業区分	教科に関する科目（保健体育）	単位数	2	開講期	前期	対象学年	2年生以上
履修上の注意事項	中・高一種免「保健体育」：教科に関する科目（選択必修）						

①授業のねらい・概要

剣道で必要とされる高度な専門的知識・技能・ルール・トレーニング法について理解し、実践できるようになることを目的とする。

②教育目標とこの授業科目の関係

「知・徳・体」一体の人間力を育成する教育理念に、まさに合致した授業科目であり、特に教育目標の〔1〕主体性を持った意欲ある人材を育成するために必要な科目である。

③授業の進め方・指示事項

剣道は、剣の理法の修練による人間形成の道である。打つ、突く、かわす、跳ぶなどの基礎的運動能力を身につけると同時に、洞察力、判断力、実行力などを養う。すなわち、身体の鍛錬を通し、精神面も同時に鍛錬するが、竹刀を媒体として相手を打突する運動だけに、礼儀作法についても特に力を入れて養成する。また各々の学習項目において、トレーニング法や指導法の習得を目指して授業をすすめ、最後にはこれらの知識や技能の修得を確認するための模擬授業を実施する。

- ・個人で、竹刀、剣道着、袴が必要となる。販売についてはオリエンテーション時に指示する。
- ・後期より剣道具をつけておこなう。剣道具については大学で準備する。

④関連科目・履修しておくべき科目

関連科目：なし

履修しておくべき科目：なし

⑤標準的な達成レベルの目安

- (i) 剣道理合とその基本的技能を習得する。
- (ii) 基本動作（構えと体さばき・打突の仕方と受け方）を身につける。
- (iii) 対人的技能（しかけ技・応じ技）を身につける。
- (iv) ルール（含審判法）・トレーニング法を正しく理解し、実践できる。
- (v) 健康の維持増進および体力の向上のための「剣道」に関する知識を持ち、実践することができる。
- (vi) 競技会の企画運営ができる。

⑥教科書

必要に応じてプリントを配布。

⑦参考図書・指定図書

なし

⑧学習の到達目標とその評価の方法

具体的な学習到達目標	試験	小テスト	レポート	発表・実技	論文・作品	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合				60			40	100
(i) 知識の習得				20			10	30
(ii) 技能の習得				20			20	40
(iii) 初心者指導の実践				20			10	30

⑨担当教員からのメッセージ

指導者は己の後姿を見せなければなりません!!

⑩授業計画と学習課題				
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題(予習復習等)と時間(分)	
1	オリエンテーション(授業展開の説明、評価の説明、中学・高校学習指導要領「剣道」の解説)		オリエンテーション内容の確認	30
2	剣道着、袴のつけ方、たたみ方	剣道着・袴・竹刀	剣道着、袴のつけ方、たたみ方の確認	30
3	礼法、竹刀の持ち方、構え方、足捌き、目付け	剣道着・袴・竹刀	授業内容予告についてのイメージトレーニングと今回の授業内容の確認	60
4	竹刀の操作～素振り(刃筋を正す素振り、面打ちの素振り、一挙動)	剣道着・袴・竹刀	授業内容予告についてのイメージトレーニングと今回の授業内容の確認	60
5	基本打突(面打ち、小手打ち、胴打ち)	剣道着・袴・竹刀	授業内容予告についてのイメージトレーニングと基本打突の確認	60
6	切り返し	剣道着・袴・竹刀	授業内容予告についてのイメージトレーニングと切り返しの確認	60
7	しかけ技の練習(連続技、払い技)	剣道着・袴・竹刀	授業内容予告についてのイメージトレーニングとしかけ技の確認	60
8	しかけ技の練習(出ばな技、引き技)	剣道着・袴・竹刀	授業内容予告についてのイメージトレーニングとしかけ技の確認	60
9	応じ技の練習(抜き技、すり上げ技)	剣道着・袴・竹刀	授業内容予告についてのイメージトレーニングと応じ技の確認	60
10	応じ技の練習(返し技、打ち落とし技)	剣道着・袴・竹刀	授業内容予告についてのイメージトレーニングと応じ技の確認	60
11	しかけ技と応じ技の総合練習	剣道着・袴・竹刀	剣道の技に対するイメージトレーニングと確認	60
12	しかけ技と応じ技の総合練習	剣道着・袴・竹刀	剣道の技に対するイメージトレーニングと確認	60
13	日本剣道形(1本目、2本目、3本目)	剣道着・袴	日本剣道形1本目から3本目迄の確認	45
14	日本剣道形(4本目、5本目)	剣道着・袴	授業内容予告についてのイメージトレーニングと日本剣道形4本目、5本目の確認	60
15	実技テストと前期のまとめ	剣道着・袴・竹刀	実技テストのシミュレーションと前期まとめの確認	60
16	剣道具のつけ方	剣道着・袴・面下・竹刀	剣道着のつけ方の確認	30
17	剣道具をつけての基本打突、切り返し、技の練習	剣道着・袴・面下・竹刀	授業内容予告についてのイメージトレーニングと今回の授業内容の確認	60
18	剣道具をつけての基本打突、切り返し、技の練習	剣道着・袴・面下・竹刀	授業内容予告についてのイメージトレーニングと今回の授業内容の確認	60
19	打ち込み稽古を中心に	剣道着・袴・面下・竹刀	授業内容予告についてのイメージトレーニングと今回の授業内容の確認	60
20	懸り稽古を中心に	剣道着・袴・面下・竹刀	授業内容予告についてのイメージトレーニングと今回の授業内容の確認	60

21	互格稽古を中心に	剣道着・袴・面下・竹刀	授業内容予告についてのイメージトレーニングと今回の授業内容の確認	60
22	総合練習	剣道着・袴・面下・竹刀	総合練習におけるイメージトレーニングと授業内容の確認	60
23	総合練習	剣道着・袴・面下・竹刀	総合練習におけるイメージトレーニングと授業内容の確認	60
24	剣道試合、審判規則の理解	剣道着・袴・面下・竹刀	剣道試合、審判規則の予習とその内容確認	60
25	試合と審判	剣道着・袴・面下・竹刀	試合と審判のシミュレーションと実際の振り返り	60
26	試合と審判	剣道着・袴・面下・竹刀	試合と審判のシミュレーションと実際の振り返り	60
27	試合と審判	剣道着・袴・面下・竹刀	試合と審判のシミュレーションと実際の振り返り	60
28	実技指導の模擬授業	剣道着・袴・面下・竹刀	模擬授業のシミュレーションと振り返り	60
29	実技指導の模擬授業（競技会の企画運営）	剣道着・袴・面下・竹刀	模擬授業のシミュレーションと振り返り	60
30	実技テストとまとめ	剣道着・袴・面下・竹刀	実技テストのシミュレーションと全体の振り返り	60

授業科目名	ソフトボール						
担当教員	瀬尾 賢一郎			時 限			
授業区分	教科に関する科目（保健体育）	単位数	2	開講期	通年	対象学年	2年生以上
履修上の注意事項	中・高一種免「保健体育」：教科に関する科目（選択必修）						

①授業のねらい・概要

ソフトボールは、走・投・打の個人における基本的動作をもとに成立するチームスポーツである。スポーツ活動の実践の中で、個人技能の習得およびチームにおける連携プレイやゲームを通じて、コミュニケーション能力の養成を図り、ソフトボールに対する理解や指導方法を身につける。

②教育目標とこの授業科目の関係

本学の教育理念である「知・徳・体」一体の教育を行い、教育目標のうち、[2]「世界的視野と広く豊かな教養を有する人材を育成する」・[3]「現実的な知識と手法を備え、問題解決能力を持った人材を育成する」ために必要な科目である。

③授業の進め方・指示事項

学習意欲を重視し、安全に実技ができるように、常に体調管理に気を配ること。授業を通して基礎的な技術・知識（ルール及び審判法）などを習得する。

④関連科目・履修しておくべき科目

⑤標準的な達成レベルの目安

- (i) ソフトボールの基礎技術が習得できる。
- (ii) ソフトボールの競技方法や規則について理解でき、ゲームの審判をすることができる。
- (iii) 本科目における「学生が達成する行動目標」の達成度について自己評価することができる。

⑥教科書

⑦参考図書・指定図書

⑧学習の到達目標とその評価の方法

具体的な学習到達目標	試験	小テスト	レポート	発表・実技	論文・作品	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			20	50		30		100
個人的技術の習得			5	15		10		30
集団的戦術の習得			5	15		10		30
審判法・指導法の習得			10	20		10		40

⑨担当教員からのメッセージ

種目を学ぶだけでなく、種目で何を学ぶのかということを考えながら取り組んでいきましょう。

⑩授業計画と学習課題

回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題（予習復習等）と時間（分）
1	オリエンテーション（授業概要・中学、高校の学習指導要領の説明）		学習指導要領におけるソフトボールの記述を読む 30
2	キャッチボールに関する基礎知識1（キャッチング・スローイングの基礎）		キャッチボールの基本的技術を事前に調べる・復習する。 30
3	キャッチボールに関する基礎知識2（前回の復習、遠投）		キャッチボールの技術練習法を事前に調べる・復習する。 30

4	キャッチボールに関する基礎知識3 (前回の復習、ステップスロー)		キャッチボールの応用的技術練習法を調べる・復習する。	30
5	バッティングに関する基礎知識1 (前回の復習、スイングの基礎)		バッティングの基本的術について調べる・復習する。	30
6	バッティングに関する基礎知識2 (前回の復習、バットコントロール)		バッティングの基本的術について調べる・復習する。	30
7	バッティングに関する基礎知識3 (前回の復習、遠くに打球を飛ばすコツ)		バッティングの基本的術について調べる・復習する。	30
8	バッティングに関する基礎知識4 (前回の復習、ロングティー)		バッティングの基本的術について調べる・復習する。	30
9	バッティングに関する基礎知識5 (前回の復習、フリーバッティング)		バッティングの基本的術について調べる・復習する。	30
10	ベースランニングの基礎知識 (前回の復習、効率の良いベースラン)		ベースランニングの基本的技術について調べる・復習する。	30
11	守備に関する基礎知識1 (前回の復習、ゴロの正しい捕球)		守備の基本的技術について調べる・復習する。	30
12	守備に関する基礎知識2 (前回の復習、フライの正しい捕球)		守備の基本的技術について調べる・復習する。	30
13	守備に関する基礎知識3 (前回の復習、フィールディング)		守備の基本的技術について調べる・復習する。	30
14	守備に関する基礎知識4 (前回の復習、内野のノック)		守備の基本的技術について調べる・復習する。	30
15	守備に関する基礎知識5 (前回の復習、外野のノック)		守備の基本的技術について調べる・復習する。	30
16	ソフトボールのピッチングについて (前回の復習、ウインドミル投法)		ウインドミル投法の基本的技術・ルール調べる。	30
17	ソフトボールのルールやゲームの進め方1 (前回の復習、審判法)		ソフトボールのルールについて調べる。	30
18	ソフトボールのルールやゲームの進め方2 (前回の復習、戦術について)		ソフトボールのルールや戦術について調べる。	30
19	戦術を活かしたソフトボール (前回の復習)		ソフトボールのルールや戦術について調べる。	30
20	チーム編成1 (前回の復習)		チームにとって効果的な戦術を考えてくる。	30
21	チーム練習1 (グループ別練習を行う)		チームにとって効果的な役割について考える。	30
22	チーム練習2 (チーム内でポジションを決める)		チームにとって効果的な役割について考える。	30
23	チーム練習3 (グループ別練習ゲームを行う)		各々のチームにとって何が課題かを考える。	30
24	第一回目 リーグ戦形式での試合		ゲーム分析を行う。	30
25	第二回目 リーグ戦形式での試合		ゲーム分析を行う。	30
26	チーム編成2 (勝利のための戦略立案など)		ゲーム分析を行う。	30
27	第三回目 リーグ戦形式での試合		ゲーム分析を行う。	30
28	第一回目 トーナメント形式での試合		ゲーム分析を行う。	30
29	第二回目 トーナメント形式での試合		ゲーム分析を行う。	30
30	プレゼンテーション (試合を通しての戦略の公表などを行う)		リーグ戦やトーナメント戦を通してのチーム戦略の公表。	30

授業科目名	バドミントン						
担当教員	佐藤 英雄	時 限					
授業区分	教科に関する科目 (保健体育)	単位数	2	開講期	通年	対象学年	2年生以上
履修上の注意事項	中・高一種免「保健体育」：教科に関する科目 (選択必修)						

①授業のねらい・概要

バドミントンをおこなうために必要となる高度な専門的知識・技能・ルール・トレーニング法について理解し、実践できるようになることを目的とする。

②教育目標とこの授業科目の関係

本学の教育理念である「知・徳・体」一体の教育を行い、教育目標のうち、[2]「世界的視野と広く豊かな教養を有する人材を育成する」・[3]「現実的な知識と手法を備え、問題解決能力を持った人材を育成する」ために必要な科目である。

③授業の進め方・指示事項

バドミントンの特徴である、相手の動きやフライトの特徴に対応してゲームを組み立てる戦略性について学ぶ。またダブルスではパートナーとの連携での自己の役割を理解し、ゲームで生かせる能力を育成する。後期の終わりにはこれらの知識や技能の修得状況を確認するための模擬授業を実施する。

- ・服装はトレーニングウェアを着用。
- ・屋内シューズを使用。

④関連科目・履修しておくべき科目

関連科目：なし

履修しておくべき科目：なし

⑤標準的な達成レベルの目安

- (i) バドミントンの個人技能 (ハイクリア・ドロップ・スマッシュ・ヘアピンなどに対するフライト・サービス・レシーブ) に関する高度な知識と技能を身につける。
- (ii) ネット型ゲームの特性を理解し、相手の動きやフライトの特徴に応じて作戦をたて、シングルスおよびダブルスのゲームができる。
- (iii) 競技のルール (含審判法) ・トレーニング法を習得する。
- (iv) 競技会の企画運営ができる。

⑥教科書

必要に応じてプリントを配布する。

⑦参考図書・指定図書

なし

⑧学習の到達目標とその評価の方法

具体的な学習到達目標	試験	小テスト	レポート	発表・実技	論文・作品	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		30		30		30	10	100
(i) 知識を取り込む力		5		10		10	5	30
(ii) 技能の習得		20		10		10	5	45
(iii) 学習に取り込む姿勢・意欲		5		10		10		25

⑨担当教員からのメッセージ

バドミントンに関心を持ち、実技や講義などの学習活動に積極的に参加してほしい。

⑩授業計画と学習課題				
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題(予習復習等)と時間(分)	
1	オリエンテーション(授業展開説明、評価の説明、班分け、学習指導要領「バドミントン」について)		オリエンテーション内容の確認	30
2	基礎知識(用具・サービス権の移行順序・ルールなど)	室内シューズ	授業内容の確認	60
3	基本的技能1(シャトルを打つ前に) a. 基本姿勢とホームポジション b. ラケットの構え方 c. ストレッチ・ウォーミングアップ d. シャトルに慣れる練習方法	室内シューズ	授業内容についてのイメージトレーニングと基本的技能1の確認	60
4	基本的技能2(ストロークのバリエーション1) a. フォアハンドとバックハンドの構え b. オーバーヘッドストローク c. オーバーヘッドストロークの練習法	室内シューズ	授業内容についてのイメージトレーニングと基本的技能2の確認	60
5	基本的技能3(ストロークのバリエーション2) a. オーバーヘッドストロークバック b. サイドアームストロークフォア c. サイドアームストロークバック	室内シューズ	授業内容についてのイメージトレーニングと基本的技能3の確認	60
6	基本的技能4(ストロークのバリエーション3) a. アンダーハンドストロークフォア b. アンダーハンドストロークバック	室内シューズ	授業内容についてのイメージトレーニングと基本的技能4の確認	60
7	基本的技能5(ショート&レシーブ基礎1) a. ドライブ b. プッシュ c. プッシュレシーブ d. ドロップ	室内シューズ	授業内容についてのイメージトレーニングと基本的技能5の確認	60
8	基本的技能6(ショート&レシーブ基礎2) a. ロビング b. ハイクリアフォア c. ハイクリアバック d. スマッシュ	室内シューズ	授業内容についてのイメージトレーニングと基本的技能6の確認	60
9	ショート&レシーブ上級編(1) a. ショートドライブ b. カット c. クロスヘアピン d. スピンヘアピン	室内シューズ	ショート&レシーブの技術の確認	60
10	ショート&レシーブ上級編(2) a. ドリブンクリア b. ワイパーショット c. スマッシュレシーブロング	室内シューズ	ショート&レシーブの技術の確認	60
11	ショート&レシーブ上級編(3) a. スマッシュレシーブロング b. ジャンピングスマッシュ	室内シューズ	ショート&レシーブの技術の確認	60
12	フットワーク(1) a. 前方フォア側へのフットワーク b. 前方バック側へのフットワーク	室内シューズ	フットワーク(1)技術の確認	60
13	フットワーク(2) a. サイドフォア側へのフットワーク b. サイドバック側へのフットワーク	室内シューズ	フットワーク(2)技術の確認	60
14	フットワーク(3) a. 後方フォア側へのフットワーク b. 後方バック側へのフットワーク	室内シューズ	フットワーク(3)技術の確認	60

15	サービス（１） a. サービスのルール b. フォアサービス c. バックサービス	室内シューズ	サービス（１）技術の確認	60
16	サービス（２） a. サービスの練習法 b. サービスリターンシングルス c. サービスリターンダブルス	室内シューズ	サービス（２）技術の確認	60
17	シングルの戦術（１） a. 弱点の徹底攻撃から先手を奪う b. 相手の特徴を封じる戦い方	室内シューズ	シングルの戦術（１）の確認	60
18	シングルの戦術（２） a. 長めのヘヤピンで浮き球を誘う b. 前後の揺さぶりをかける c. 守備からのカウンター攻撃	室内シューズ	シングルの戦術（２）の確認	60
19	ダブルスの戦術（１） a. 基本フォーメーション b. ローテーションの考え方 c. 実践的なフォーメーション	室内シューズ	ダブルスの戦術（１）の確認	60
20	ダブルスの戦術（２） a. 攻撃型のペアに対する戦い方 b. 守備型のペアに対する戦い方	室内シューズ	ダブルスの戦術（２）の確認	60
21	ノック（１） a. スマッシュレシーブ b. プッシュ→スマッシュ	室内シューズ	ノック（１）の確認	60
22	ノック（２） a. フォアヘヤピン→ラウンドスマッシュ →プッシュ b. バックヘヤピン→フォアスマッシュ →プッシュ	室内シューズ	ノック（２）の確認	60
23	ノック（３） a. フォアロブ→バックロブ→ラウンドスマッシュ b. ラウンドスマッシュ→バックヘヤピン →フォアスマッシュ	室内シューズ	ノック（３）の確認	60
24	実技テスト	室内シューズ	実技テストの振り返り	60
25	シングルスと審判 (各班にてリーグ戦)	室内シューズ	シングルス・ゲームの振り返り	60
26	ダブルスと審判 (各班にてリーグ戦)	室内シューズ	ダブルス・ゲームの振り返り	60
27	シングルス&ダブルス (各班別対抗戦)	室内シューズ	シングルス・ダブルスの振り返り	60
28	模擬授業（バドミントンの指導法および審判の実践）	室内シューズ	模擬授業のシミュレーションとその振り返り	60
29	模擬授業（バドミントンの指導法および審判の実践と競技会の企画運営）	室内シューズ	模擬授業のシミュレーションとその振り返り	60
30	授業のまとめと実技テスト	室内シューズ	「学生の達成すべき行動目標」に関する自己評価（ポートフォリオ）を行う	60

授業科目名	バレーボール						
担当教員	宇土 昌志	時 限					
授業区分	教科に関する科目 (保健体育)	単位数	2	開講期	通年	対象学年	2年生以上
履修上の注意事項	中・高一種免「保健体育」：教科に関する科目 (選択必修)						

①授業のねらい・概要

バレーボール競技に必要とされる専門的知識・技能・ルール・トレーニング法について理解し、実践できるようになることを目的とする。ネット型ゲームの一つであるバレーボールに親しみ、その競技特性やルールを理解し、チームの目的にあった動きができる技能を身につける。授業では、各種の技能、トレーニング法、指導法について、実践的な学習を行う。

②教育目標とこの授業科目の関係

本学の教育理念である「知・徳・体」一体の教育を行い、教育目標のうち、[2]「世界的視野と広く豊かな教養を有する人材を育成する」・[3]「現実的な知識と手法を備え、問題解決能力を持った人材を育成する」ために必要な科目である。

③授業の進め方・指示事項

バレーボールの技能 (トス、レシーブ、サービス、アタック) や戦術について、実践的な学習を行う。トレーニング法や指導法についても学習する。

④関連科目・履修しておくべき科目

⑤標準的な達成レベルの目安

- (i) バレーボールの個人技術を正しく身につけることができた。
- (ii) バレーボールの集団技能 (戦術など) を理解し、実践することができた。
- (iii) バレーボールのルールや審判法を習得することができた。

⑥教科書

⑦参考図書・指定図書

⑧学習の到達目標とその評価の方法

具体的な学習到達目標	試験	小テスト	レポート	発表・実技	論文・作品	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	10		10	50		30		100
個人的技術の習得			5	15		10		30
集団的戦術の習得			5	15		10		30
審判法・指導法の習得	10			20		10		40

⑨担当教員からのメッセージ

種目に関する学習のみならず、教育現場に求められる知識・技能を習得する。その中で、ネット型ゲームの教育的意義について、体験的に理解を深めてもらいたい。

⑩授業計画と学習課題

回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題 (予習復習等) と時間 (分)
1	オリエンテーション	筆記用具	シラバスの熟読とバレーボールのルールについて調べる。
2	バレーボールの歴史及びルールの説明並びにパスのスキルテスト及びミニゲーム	体育館シューズ	パスの基本的技術について事前に調べる・復習する。

3	パスの技術 (オーバーハンドパス) オーバーハンドパスを用いたミニゲーム	体育館シューズ	パスの基本的技術について事前に調べる・復習する。	30
4	パスの技術 (アンダーハンドパス) アンダーハンドパスを用いたミニゲーム	体育館シューズ	パスの技術練習法について事前に調べる・復習する。	30
5	パスの技術とミニゲーム (オーバーハンドパス, アンダーハンドパス)	体育館シューズ	パスの応用的技術・練習法について調べる・復習する。	30
6	トスの技術とトレーニング法 (直上トス, クイックトス)	体育館シューズ	トスの基本的技術について調べる・復習する。	30
7	サーブの技術 (アンダーサーブ, フロートサーブ及びオーバーサーブ)	体育館シューズ	サーブの基本的技術について調べる・復習する。	30
8	スパイク技術の習得とミニゲーム (スパイクを打つためのステップの習得)	体育館シューズ	スパイクの基本的技術について調べる・復習する。	30
9	スパイク技術の習得とミニゲーム (トスに合わせたスパイクの習得)	体育館シューズ	スパイクの応用的技術について調べる・復習する。	30
10	スパイク技術の習得とミニゲーム (速攻及びコンビネーション)	体育館シューズ	スパイクの応用的技術について調べる・復習する。	30
11	ブロック技術の習得とミニゲーム	体育館シューズ	ブロックの基本的技術について調べる・復習する。	30
12	スパイクレシーブ技術の習得及びミニゲーム	体育館シューズ	スパイクレシーブの基本的技術について調べる・復習する。	30
13	サーブレシーブフォーメーションの理解及び6人制ゲーム	体育館シューズ	効果的なフォーメーションについて復習する。	30
14	ルールに関する筆記テスト	筆記用具	ルールについて復習をする。	30
15	パスのスキルテスト	体育館シューズ	パスの技術について復習をする。	30
16	守備面の連携技術の理解及び6人制ゲーム	体育館シューズ	守備面の連携技術について調べる・復習する。	30
17	守備と攻撃の切替の理解及び6人制ゲーム	体育館シューズ	守備と攻撃の切替について調べる・復習する。	30
18	ポジションの決定とその役割の理解及び6人制ゲーム	体育館シューズ	ポジションごとの役割について調べる・復習する。	30
19	バレーボールの戦術 (各種クイック)	体育館シューズ	基本戦術について調べる・復習する。	30
20	バレーボールの戦術 (二段攻撃)	体育館シューズ	基本戦術について調べる・復習する。	30
21	バレーボールの戦術 (三段攻撃)	体育館シューズ	有効な戦術とトレーニング法について調べる・復習する。	30
22	バレーボールの戦術 (バックアタック)	体育館シューズ	バックアタックの練習法について復習する。	30
23	バレーボールの戦術 (リベロの役割)	体育館シューズ	プレイヤーの役割について調べる。	30
24	ポジションの決定と6人制ゲーム	体育館シューズ	戦術を活かしたゲームについて調べる・復習する。	30
25	バレーボールの試合とゲーム分析の手法	体育館シューズ	ゲーム分析について調べる・復習する。	30
26	バレーボールの試合 (リーグ戦) (チームごとのトレーニング・戦術・ゲーム分析)	体育館シューズ	ゲーム分析を行う。	30
27	9人制バレーボールのルール, 競技方法についての講義	筆記用具	9人制バレーボールについて調べる・復習する。	30
28	9人制バレーボールの守備についての理解とゲーム	体育館シューズ	9人制バレーボールの守備について調べる・復習する。	30
29	9人制バレーボールの攻撃についての理解とゲーム	体育館シューズ	9人制バレーボールの攻撃について調べる・復習する。	30
30	スキルテスト	体育館シューズ	バレーボール技術について復習する。	30

授業科目名	野外活動（雪上）						
担当教員	前田 一篤	時 限					
授業区分	教科に関する科目（保健体育）	単位数	1	開講期	集中	対象学年	2年生以上
履修上の注意事項	中・高一種免「保健体育」：教科に関する科目（選択） 雪上での実習と集団行動を要するため、受講中の体調管理には十分注意すること。						

①授業のねらい・概要							
保健体育科教諭にとって、集団行動や課外活動における指導力は必須要件となるため、集団行動を含めた雪上における滑走技能の習得を目指す。							
②教育目標とこの授業科目の関係							
雪上で安全に滑走できる技術を習得するため、体育の実技授業として関連つけられる。							
③授業の進め方・指示事項							
集団による雪上での滑走技能を習得するため、滑走経験によるクラス分けを実施する。 それぞれのクラスにおいて、最適な模範演技を示しながら実施する。							
④関連科目・履修しておくべき科目							
運動生理学 I							
⑤標準的な達成レベルの目安							
(i) 正しい滑走技能の習得 (ii) 集団行動の規範理解 (iii) 安全に実習を行うための指針理解							
⑥教科書							
教職課程履修生のためのスキー教本							
⑦参考図書・指定図書							

⑧学習の到達目標とその評価の方法								
具体的な学習到達目標	試験	小テスト	レポート	発表・実技	論文・作品	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			20	80				100
(i) 基礎技能			0	60				60
(ii) 規範理解			5	10				15
(iii) 指針理解			15	10				25

⑨担当教員からのメッセージ							
将来教職に就くことを考えている学生にとって、野外活動に関する知識や技能の習得はもちろん、集団生活における行動や規範意識などを学ぶ必要があります。対象学年に限らず、教職希望者は是非とも履修してください。							

⑩授業計画と学習課題				
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題（予習復習等）と時間（分）	
1	1. クラス分け 2. 基礎技能の習得 1) 安全な転倒方法 2) プルークボーゲン 3) シュテムターン 4) パラレルターン 3. 総合滑降 1) 大回り～小回り 2) 不整地利用の滑走 4. 集団行動の理解	スキーに必要な道具（ウェア・板・ゴーグルなど）	寒冷地における疾病の理解 滑走のメカニズムの理解 集団行動の理解	30 30 30

授業科目名	学校保健						
担当教員	川崎 裕美			時 限			
授業区分	教科に関する科目 (保健体育)	単位数	2	開講期	集中	対象学年	2年生以上
履修上の注意事項	中・高一種免「保健体育」：教科に関する科目 (必修)						

①授業のねらい・概要

学校保健に関するさまざまな事象に対応するための基礎的知識を体系的に説明する。

②教育目標とこの授業科目の関係

本学の保健体育教師として学校における健康の保持増進に積極的に関わるための基礎的授業科目であり、本学教育目標の「広く豊かな教養を有」した上で「現実的な知識と手法を備え、問題解決能力を持って」教職の現場につくのに必要な授業科目である。

③授業の進め方・指示事項

講義形式 教科書に沿って進めます。

④関連科目・履修しておくべき科目

なし

⑤標準的な達成レベルの目安

- (i) 学校保健に関する必要な用語や事項について、説明できる。・・・(知識の面)
- (ii) 学校保健における現在の問題や課題を指摘でき、自分の意見を述べるができる。・・・(思考の面)
- (iii) 学校保健における様々な事象に課題点をみつけて積極的に参加でき、討議できる。・・・(態度の面)

⑥教科書

現場からみた学校保健 大学教育出版 川崎・岡田・石井編 (学内販売)

⑦参考図書・指定図書

学校保健 徳山美智子, 中桐佐智子 東山書房

⑧学習の到達目標とその評価の方法

具体的な学習到達目標	試験	小テスト	レポート	発表・実技	論文・作品	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		20	30	20			30	100
(i) 知識の面		20					10	30
(ii) 思考の面			20	10			10	40
(iii) 態度の面			10	10			10	30

⑨担当教員からのメッセージ

⑩授業計画と学習課題

回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題(予習復習等)と時間(分)
1	学校教育と学校保健	教科書	第1章を読む 60
2	ヘルスプロモーション	教科書	第2章を読む 60
3	子どもの発育発達	教科書	第4章を読む 60
4	子どもの疾病	教科書	第22章を読む 60
5	健康診断の意義と方法	教科書	文部科学省ホームページの健康診断の規定を調べる 60
6	健康相談	教科書	第8章を読む 60

7	健康教育	教科書	第12章を読む	60
8	指導案作成	教科書	第15章を読む	60
9	指導案作成	教科書	指導案を作成する	60
10	感染症と対策	教科書	文部科学省ホームページで感染症の種類と分類を調べる	60
11	学校保健経営	教科書	文部科学省ホームページで学校保健経営の規定を調べる	60
12	養護教諭の職務	教科書	第14章を読む	60
13	教職員の健康管理	教科書	文部科学省ホームページで職員の健康管理の規定を調べる	60
14	食育と学校給食	教科書	山口県教育委員会ホームページで食育の記載を読む	60
15	学校保健の課題	教科書	自分のレポートを読み、修正する	60

授業科目名	サッカー						
担当教員	西山 健太	時 限					
授業区分	教科に関する科目（保健体育）	単位数	2	開講期	通年	対象学年	3年生以上
履修上の注意事項	中・高一種免「保健体育」：教科に関する科目（選択必修）						

①授業のねらい・概要

サッカーは、走・蹴の基本動作を用いたチームスポーツである。本授業では、授業を通じた個人技能の向上やその指導方法とともに、チーム内等におけるコミュニケーション能力の育成を目指す。

②教育目標とこの授業科目の関係

〔1〕「主体性を持った意欲ある人材」、〔3〕「現実的な知識と手法を備え、問題解決能力を持った人材」の育成を図ります。

③授業の進め方・指示事項

個人の基本技能の向上と、ゲームの実践（戦術の理解・思考・判断）とを併せて学習していきます。体調を整え、運動のできる服装を用いて受講してください。

④関連科目・履修しておくべき科目

⑤標準的な達成レベルの目安

- (i) サッカーに関する知識・思考・判断（模擬授業や学期末ごとの課題レポートなど）
- (ii) サッカーに対する意欲・関心・態度（授業への協力姿勢、安全に対する態度など）
- (iii) サッカーに求められる専門的スキル（個人技能を中心とした実技試験）

⑥教科書

必要に応じて資料を配布します。

⑦参考図書・指定図書

(財) 日本サッカー協会『サッカー競技規則』

⑧学習の到達目標とその評価の方法

具体的な学習到達目標	試験	小テスト	レポート	発表・実技	論文・作品	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			30	70				100
(i) 知識・思考・判断			30	10				40
(ii) 意欲・関心・態度				30				30
(iii) 技能				30				30

⑨担当教員からのメッセージ

技能の向上、ゲームの楽しさだけを求めるのではなく、安全に対する姿勢や円滑な授業進行に資する態度の育成、仲間同士のコミュニケーションの工夫を行える指導者を目指しましょう。

⑩授業計画と学習課題

回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題(予習復習等)と時間(分)
1	オリエンテーション		
2	コミュニケーション(グループゲーム, コミュニケーションゲーム)		
3	ボールフィーリング(ボールタッチ, ドリブル)		
4	パスとコントロール(様々なパスとトラップ)		

5	シュート (シュート練習とシュートゲーム)			
6	ヘディング (ヘディング練習, ハーフコートゲーム)			
7	クロス of 攻撃 (キック of 練習, クロス of 練習, センターリングゲーム)			
8	守備 (チャレンジ&カバー)			
9	状況判断 (3ゴールゲーム, 複数ボールゲーム, 複数ゼッケンゲーム)			
10	チーム編成と戦略立案			
11	リーグ戦Ⅰ (予選)	参考図書	自身・チームの課題とされる技能・戦略の確認	30
12	リーグ戦Ⅰ (決勝) チーム内反省と戦略立案	参考図書	自身・チームの課題とされる技能・戦略の確認	30
13	リーグ戦Ⅱ (予選)	参考図書	自身・チームの課題とされる技能・戦略の確認	30
14	リーグ戦Ⅱ (決勝)	参考図書	自身・チームの課題とされる技能・戦略の確認	30
15	まとめと課題	参考図書	自身の技能向上の評価	30
16	技能向上 of 工夫 (ボールコントロール①)	参考図書	自身の課題とされる技能の確認	30
17	技能向上 of 工夫 (1対1)	参考図書	自身の課題とされる技能の確認	30
18	技能向上 of 工夫 (ボレー, トラップ, ボールキープ)	参考図書	自身の課題とされる技能の確認	30
19	技能向上 of 工夫 (キックフォーム)	参考図書	自身の課題とされる技能の確認	30
20	オフ・ザ・ボール of 動き (オーバーラップ, プルアウェイとプッシュアウェイ)	参考図書	自身の課題とされる技能の確認	30
21	オフ・ザ・ボール of 動き (視野から外れる, 経由地 of 役割, パスコースを生む動き)	参考図書	自身の課題とされる技能の確認	30
22	ディフェンス of 強化 (1対1 of ディフェンス)	参考図書	自身の課題とされる技能の確認	30
23	ディフェンス of 強化 (グループ of ディフェンス)	参考図書	自身の課題とされる技能の確認	30
24	ディフェンス of 強化 (ゾーンディフェンス)	参考図書	自身の課題とされる技能の確認	30
25	ディフェンス of 強化 (プレッシング, リトリート, クロスへ of 守備対応)	参考図書	自身の課題とされる技能の確認	30
26	ゴールキーパー of 技術 (基本と応用)	参考図書	自身の課題とされる技能の確認	30
27	チーム編成と戦略立案	参考図書	自身の課題とされる技能の確認	30
28	リーグ戦Ⅲ (予選)	参考図書	自身の課題とされる技能の確認	30
29	リーグ戦Ⅲ (決勝)	参考図書	自身の課題とされる技能の確認	30
30	まとめと課題	参考図書	自身の技能向上の評価	30

授業科目名	バスケットボール						
担当教員	佐藤 英雄	時 限					
授業区分	教科に関する科目（保健体育）	単位数	2	開講期	通年	対象学年	3年生以上
履修上の注意事項	中・高一種免「保健体育」：教科に関する科目（選択必修）						

①授業のねらい・概要

バスケットボール競技は、激しい競り合いの中で、状況の変化に対応する判断力が重要なスポーツである。パス・ドリブル・シュートなどの基本技能から、それらのコンビネーションによって組み立てるオフェンスやディフェンスなど、多様な内容を含む競技である。授業では、まずこれらの基本的な技能とルールについて理解し、実戦できるようになることをめざす。そして、授業計画に示した各々の項目に関する技能を習得していくとともに、その技能の指導法について実践的な授業を行います。講義の後半では、知識や技能の習得を確認するため模擬授業を行う。

②教育目標とこの授業科目の関係

本学の教育理念である「知・徳・体」一体の教育を行い、教育目標のうち、[2]「世界的視野と広く豊かな教養を有する人材を育成する」・[3]「現実的な知識と手法を備え、問題解決能力を持った人材を育成する」ために必要な科目である。

③授業の進め方・指示事項

学習意欲を重視し、安全に実技ができるように、常に体調管理に気を配ること。授業を通して、基礎的な技術・知識（ルール及び審判法）などを習得する。授業計画のなかで、模擬授業を行います。

④関連科目・履修しておくべき科目

関連科目：なし
履修しておくべき科目：なし

⑤標準的な達成レベルの目安

- (i) バスケットボールの基礎技術や戦術を習得し、ゲームでの活用に取り組むことができる。
- (ii) バスケットボールの知識、特に競技規則・競技方法についての理解できる。
- (iii) 本科目において「学生が達成すべき行動目標」の達成度について自己評価できる。

⑥教科書

⑦参考図書・指定図書

⑧学習の到達目標とその評価の方法

具体的な学習到達目標	試験	小テスト	レポート	発表・実技	論文・作品	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		30		30		30	10	100
(i) 知識を取り込む力		5		10		10	5	30
(ii) 技術の習得		20		10		10	5	45
(iii) 学習に取り組む姿勢・意欲		5		10		10		25

⑨担当教員からのメッセージ

バスケットボールに関心を持ち、実技や講義などの学習活動に積極的に参加してほしい。

⑩授業計画と学習課題

回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題(予習復習等)と時間(分)
1	オリエンテーション（年間の授業内容の説明、評価、学習指導要領「バスケットボール」について）		授業内容を振り返る。 30

2	指導者ライセンスについて		授業内容を振り返る。	30
3	ファンダメンタル (基本姿勢と構え・フットワーク・ドリブル・パス等)		授業内容を振り返る。	30
4	ファンダメンタル(フットワーク・ドリブル・パス・キャッチ・シュート・フェイント等)		授業内容を振り返る。	30
5	基礎的技能(1 on 1のオフェンス&ディフェンス等)		授業内容を振り返る。	30
6	基礎的技能(1 on 1のオフェンス&ディフェンス等)		授業内容を振り返る。	30
7	コンビネーション・オフェンス&ディフェンス (スクリーン・パス・アンド・ラン等)		授業内容を振り返る。	30
8	アウトナンバーにおけるオフェンス&ディフェンス (2 on 1・3 on 2等)		授業内容を振り返る。	30
9	3 on 3のトライアングルフォーメーション		基本プレイを学んだ3 on 3の攻防で活用する。イメージする。	30
10	チームのローテーションとゲーム		5 on 5の中で今まで攻防を実践する。イメージする。	30
11	ハーフゲーム (3 on 3)		3 on 3の攻防をイメージする。	30
12	ハーフゲーム (3 on 3)		3 on 3の攻防をイメージする。	30
13	ハーフゲーム (4 on 4)		4 on 4の攻防をイメージする。	30
14	ハーフゲーム (4 on 4)		4 on 4の攻防をイメージする。	30
15	ハーフゲーム (5 on 5)		5 on 5の攻防をイメージする。	30
16	ハーフゲーム (5 on 5)		5 on 5の攻防をイメージする。	30
17	ファーストブレイク (基本)		速攻の走るコースイメージする。	30
18	チームオフェンスⅠ (マンツーマン)		ゲーム内容を記録し、チームの問題点・課題を整理する。	40
19	チームオフェンスⅡ (ゾーン)		ゲーム内容を記録し、チームの問題点・課題を整理する。	40
20	チームディフェンスⅠ (マンツーマン)		ゲーム内容を記録し、チームの問題点・課題を整理する。	40
21	チームディフェンスⅡ (ゾーン)		ゲーム内容を記録し、チームの問題点・課題を整理する。	40
22	チームのローテーションとゲーム・審判について		ゲーム内容を記録し、チームの問題点・課題を整理する。	40
23	5 on 5 (10分-15点ゲーム) ① 審判指導		ゲーム分析を基に見つけた、個人とチームの課題を整理する。	40
24	5 on 5 (10分-15点) ② 審判指導		ゲーム分析を基に見つけた、個人とチームの課題を整理する。	40
25	5 on 5 (10分ゲーム) マンツーマン ③ 審判指導		ゲーム分析を基に見つけた、個人とチームの課題を整理する。	40
26	5 on 5 (10分ゲーム) ゾーン ④ 審判指導		ゲーム分析を基に見つけた、個人とチームの課題を整理する。	40
27	5 on 5 (10分ゲーム) マンツーマン・ゾーン ⑤ 審判指導		ゲーム分析を基に見つけた、個人とチームの課題を整理する。	40
28	模擬授業と反省会		チームの課題を話し合い、解決できるようにする。	40
29	模擬授業と反省会 (競技会の企画・運営等)		大会運営を行うにあたっての注意事項・運営企画の復習をする。	40

30	授業のまとめおよび小テストを行う。		「学生の達成すべき行動目標」に関する自己評価（ポートフォリオ）を行う。	40
----	-------------------	--	-------------------------------------	----

授業科目名	体づくり運動						
担当教員	前田 一篤	時 限					
授業区分	教科に関する科目（保健体育）	単位数	1	開講期	後期	対象学年	3年生以上
履修上の注意事項	中・高一種免「保健体育」：教科に関する科目（必修）						

①授業のねらい・概要

保健体育科目における「体づくり運動」に関する知識、技術を学習し、実際に指導する上での基礎となるものを身につける。また、模擬授業を通して、教職に就く者の資質向上を目指す。授業は、講義として「体づくり運動」に関する歴史と理論、学習指導要領における「体づくり運動」の解説、体づくり運動の教材研究、指導案作りを行う。実技授業として体づくり運動の教材体験、各班の模擬授業を行う。特に模擬授業では、学生が「教員」「生徒」の役に別れ、授業を展開する。その後のディスカッションにおいて、理解を深めていく。

②教育目標とこの授業科目の関係

本授業は教育目標の全てと関連する。とりわけ、保健体育科教員として〔3〕「現実的な知識と手法を備え、問題解決能力を持った人材を育成する」ために必要な授業科目である。

③授業の進め方・指示事項

講義形式の授業のほか、模擬授業のための指導案の作成を班別に行う。模擬授業については、班ごとで教師役を持ち回り実施する。

④関連科目・履修しておくべき科目

⑤標準的な達成レベルの目安

- (i) 学習指導要領に示されている「体づくり運動」について理解する。
- (ii) 体づくり運動に関する教材・指導案の作成ができるようになる。

⑥教科書

高橋健夫ほか（2009）体育科教育別冊23「新学習指導要領準拠 新しい体づくり運動の授業づくり」、大修館書店、1,429円＋税。（学内販売）

⑦参考図書・指定図書

文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編』平成20年度版
 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編』平成21年度版

⑧学習の到達目標とその評価の方法

具体的な学習到達目標	試験	小テスト	レポート	発表・実技	論文・作品	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			40	50			10	100
(i) 学習指導要領に示されている「体づくり運動」について理解する。			40				5	45
(ii) 体づくり運動に関する教材・指導案の作成ができるようになる。				50			5	55

⑨担当教員からのメッセージ

教員養成講座である為、熱意を持って積極的に取り組める学生を強く望みます。新しい学習指導要領から中学校・高等学校において必須となった「体づくり運動」の実際と指導について、体験しながら楽しく学んでいきましょう。

⑩授業計画と学習課題				
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題(予習復習等)と時間(分)	
1	オリエンテーション(「体づくり運動」とは)		学習指導要領に示されている目標および内容の確認	30
2	「体づくり運動」の実際1(体ほぐしの運動)	参考図書	体ほぐしの運動の特性の理解	30
3	「体づくり運動」の実際2(体力を高める運動)	参考図書	体力を高める運動の特性の理解	30
4	「体づくり運動」の模擬授業に向けて(グループ分け・指導案の作成)	参考図書	「体づくり運動」に関わる資料の収集・指導案の作成	60
5	「体づくり運動」の模擬授業に向けて(指導案の作成)	参考図書	「体づくり運動」に関わる資料の収集・指導案の作成	60
6	模擬授業とディスカッション1	参考図書	模擬授業の内容とディスカッションに挙げた点の振り返り	60
7	模擬授業とディスカッション2	参考図書	模擬授業の内容とディスカッションに挙げた点の振り返り	60
8	模擬授業とディスカッション3	参考図書	模擬授業の内容とディスカッションに挙げた点の振り返り	60
9	模擬授業とディスカッション4	参考図書	模擬授業の内容とディスカッションに挙げた点の振り返り	60
10	模擬授業とディスカッション5	参考図書	模擬授業の内容とディスカッションに挙げた点の振り返り	60
11	模擬授業とディスカッション6	参考図書	模擬授業の内容とディスカッションに挙げた点の振り返り	60
12	模擬授業とディスカッション7	参考図書	模擬授業の内容とディスカッションに挙げた点の振り返り	60
13	「体づくり運動」に関わる教材研究・教材考案	参考図書	「体づくり運動」に関わる資料の収集・教材の考案	60
14	「体づくり運動」に関わる教材研究・教材考案	参考図書	「体づくり運動」に関わる資料の収集・教材の考案	60
15	「体づくり運動」に関わる教材の提案			

授業科目名	公衆衛生学						
担当教員	岩本 功	時 限					
授業区分	教科に関する科目（保健体育）	単位数	2	開講期	後期	対象学年	3年生以上
履修上の注意事項	中・高一種免「保健体育」：教科に関する科目（必修）						

①授業のねらい・概要

人間の健康に影響を及ぼす各種要因（食・環境・社会等）と疾病との関連や各種疾病に対する予防対策ならびに健康の現状及びその指標について講義する。

②教育目標とこの授業科目の関係

この授業は教育目標の〔3〕現実的な知識と手法を備え、問題解決能力を持った人材の育成につながるものであり、疫学的見地・各種健康指標などの基本的な知識とそれに対する社会環境と健康の関係を理解させ、教職・スポーツに関わる業務に役立つものである。

③授業の進め方・指示事項

主に教科書に沿って講義を進め、講義内容に関する学習資料としてプリントを配付する。
成績評価：出席状況、受講態度、レポート、小テストおよび期末テストなど。

④関連科目・履修しておくべき科目

⑤標準的な達成レベルの目安

- (i) 各種法律－制度－組織について理解できる。
- (ii) 健康と疾病に影響する要因について理解できる。
- (iii) 各種健康指標について理解できる。
- (iv) 環境・社会と健康の関連について理解できる。

⑥教科書

鈴木庄亮 ほか『シンプル衛生公衆衛生学（2016年版）』南江堂 2,400円＋税（学内販売）

⑦参考図書・指定図書

国民衛生の動向

⑧学習の到達目標とその評価の方法

具体的な学習到達目標	試験	小テスト	レポート	発表・実技	論文・作品	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	40	20	20				20	100
(i) 法律・制度等の理解	10	5	5				5	25
(ii) 疾病等の理解	10	5	5				5	25
(iii) 各種健康指標の理解	10	5	5				5	25
(iv) 環境・社会と健康の関連の理解	10	5	5				5	25

⑨担当教員からのメッセージ

疫学的見地、各種制度などから健康とは何かを考える。

⑩授業計画と学習課題

回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題（予習復習等）と時間（分）
1	第1章 衛生・公衆衛生学序論	教科書	第1章の復習 60
2	第2章 保健統計－1 人口動態統計と人口静態統計	教科書	人口動態統計と人口静態統計の復習 60
3	第2章 保健統計－2 集団の健康指標	教科書	集団の健康指標の復習 60

4	第3章 疫学、第4章 疾病予防と健康管理－1	教科書	疫学、疾病予防と健康管理の復習	60
5	第3章 疫学、第4章 疾病予防と健康管理－2	教科書	疫学、疾病予防と健康管理の復習	60
6	第5章 主な疾病の予防－1 生活習慣病	教科書	生活習慣病の復習	60
7	第5章 主な疾病の予防－2	教科書	その他の成人病の復習	60
8	第6章 環境保健－1 温熱要素	教科書	温熱要素の復習	60
9	第6章 環境保健－2 上水道・下水道・廃棄物処理	教科書	上水道・下水道・廃棄物処理の復習	60
10	第8章 母子保健 母子保健法	教科書	母子保健法の復習	60
11	第9章 学校保健 学校保健安全法	教科書	学校保健安全法の復習	60
12	第10章 産業保健－1 労働安全衛生法・労働基準法	教科書	労働安全衛生法・労働基準法の復習	60
13	第10章 産業保健－2 職業病とその各種要因	教科書	職業病とその各種要因の復習	60
14	第14章 保健医療の制度と法規－1	教科書	保健医療の制度と法規の復習	60
15	第14章 保健医療の制度と法規－2	教科書	保健医療の制度と法規の復習	60

授業科目名	精神保健						
担当教員	末次 絵里子			時 限			
授業区分	教科に関する科目（保健体育）	単位数	2	開講期	前期	対象学年	3年生以上
履修上の注意事項	中・高一種免「保健体育」：教科に関する科目（必修）						

①授業のねらい・概要

精神保健の基礎的な問題について体系的に説明する。さらに、心理臨床的な対人援助の基本について、知識と技術を学んでもらうことができるよう、具体的事例をもとに考えていく時間や、自己と他者を見つめるためのスキルを身に付ける実践活動の時間も取り入れていく。

②教育目標とこの授業科目の関係

教育目標のうち、特に〔2〕「世界的視野と広く豊かな教養を有する人材」、並びに〔3〕「現実的な知識と手法を備え、問題解決能力を持った人材」を育成する授業科目である。

③授業の進め方・指示事項

実際の生活の中で生かせる授業にしていくため、臨床心理学的性格テスト等を組み入れる方向です。受講生は積極的に自己の内面を見つめる意欲を持ってのぞんでほしいと思っています。

成績評価：試験、レポート、出席状況などでの総合評価。

④関連科目・履修しておくべき科目

なし

⑤標準的な達成レベルの目安

精神保健の基礎を理解した上で、学校教育場面で想定される様々な問題への心理的支援について適切な対処方法を探究していく力を身に付けることを目標とします。

⑥教科書

古庄純一 編『子どもの精神保健テキスト』診断と治療社、3,024円（学内販売）

⑦参考図書・指定図書

その他の参考テキスト等については授業の中でお知らせします。

⑧学習の到達目標とその評価の方法

具体的な学習到達目標	試験	小テスト	レポート	発表・実技	論文・作品	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	30	30	30				10	100
(i) 教職分野における基礎的知識の習得	10	10	10					30
(ii) 他者理解のための心理学的知識・技術の習得	10	10	10				5	35
(iii) 具体的事例を考察するための応用力	10	10	10				5	35

⑨担当教員からのメッセージ

肩の力を抜いて、一緒にメンタルヘルスのことを考えていきましょう。

⑩授業計画と学習課題

回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題（予習復習等）と時間（分）
1	精神保健総論	筆記用具 教科書	授業の振り返りと小レポート作成 30
2	精神保健の歴史	筆記用具 教科書 レポート	授業の振り返りと小レポート作成 30

3	ライフサイクルと精神保健	筆記用具 教科書 レポート	授業の振り返りと小レポート作成	30
4	現代社会と精神保健	筆記用具 教科書 レポート	授業の振り返りと小レポート作成	30
5	臨床心理学的視点と精神保健	筆記用具 教科書 レポート	授業の振り返りと小レポート作成	30
6	発達心理学的視点における心の到達課題	筆記用具 教科書 レポート	授業の振り返りと小レポート作成	30
7	学校教育場面における今日的課題と精神保健	筆記用具 教科書 レポート	授業の振り返りと小レポート作成	30
8	地域精神保健活動について	筆記用具 教科書 レポート	授業の振り返りと小レポート作成	30
9	精神保健事例研究 1 (児童虐待)	筆記用具 教科書 レポート	授業の振り返りと小レポート作成	30
10	精神保健事例研究 2 (発達障害)	筆記用具 教科書 レポート	授業の振り返りと小レポート作成	30
11	精神保健事例研究 3 (不登校)	筆記用具 教科書 レポート	授業の振り返りと小レポート作成	30
12	精神保健事例研究 4 (いじめ)	筆記用具 教科書 レポート	授業の振り返りと小レポート作成	30
13	精神保健事例研究 5 (非行等)	筆記用具 教科書 レポート	授業の振り返りと小レポート作成	30
14	自己と他者のための心の健康づくりとは	筆記用具 教科書 レポート	授業の振り返りと小レポート作成	30
15	精神保健における今後の展望	筆記用具 教科書 レポート	授業の振り返りと小レポート作成	30

授業科目名	教職ボランティア実習						
担当教員	兼重 宗和、柚洞 一央、小松 佐穂子				時 限		
授業区分	教科又は教職に関する科目(共通)	単位数	2	開講期	前期	対象学年	3年生以上
履修上の注意事項	中一種免：教科又は教科に関する科目（必修）						

①授業のねらい・概要

教育職員免許法の特例等に関する法律が改正され、平成10年から「介護等の体験」が義務づけられた。原則として盲・聾・養護学校で2日間、社会福祉施設等で5日間の体験が必要となった。そして、介護等の体験の証明書を教育職員の免許を申請するとき提出することが定められた。よって特殊教育諸学校では介護及び介助、児童生徒の話し相手や付き添い等の体験、掃除・洗濯等の職員に必要とされる業務の補助などを体験する。社会福祉施設では、障害者・高齢者等に対する介護・介助・や職員に必要とされる業務の補助などを体験する。これらを体験するための知識・技能を身につける必要がある。

②教育目標とこの授業科目の関係

教職ボランティア実習は講義と実習を行い、その際教育目標の「[1]主体性を持った意欲ある人材」でありまた「[3]現実的な知識と手法を備え、問題解決能力を持った人材」である必要がある。

③授業の進め方・指示事項

講義と講演、実習で進める。
実習があるので①健康診断を受け、②保険加入証明書の提出、③実習費の支払い、④麻疹・百日咳の免疫検査証明書の提出が必要になります。期日までに提出してください。CASKの「教職カルテ」に記入すること。

④関連科目・履修しておくべき科目

履修しておくべき科目：教育原理・教育心理

⑤標準的な達成レベルの目安

- (i) 介護等体験の意義が理解できた。
- (ii) 人の心の痛みがわかった。
- (iii) 各人の価値観の相違がわかった。
- (iv) 介護等の基礎用語、基礎技術を体得した。

⑥教科書

⑦参考図書・指定図書

現代教師養成会 編『介護等の体験ハンドブック』大修館書店

⑧学習の到達目標とその評価の方法

具体的な学習到達目標	試験	小テスト	レポート	発表・実技	論文・作品	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	30		30	40				100
(i) 介護等体験の意義理解	10		10	10				30
(ii) 身障者と健常者の理解	10		10	20				40
(iii) 介護等の基礎用語の知識	10		10					20
(iv) 介護等の基礎技術の体得				10				10

⑨担当教員からのメッセージ

本学のEQ教育やキャリア教育を活かし介護等体験をしましょう。また、予習復習をしましょう。

⑩授業計画と学習課題				
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題(予習復習等)と時間(分)	
1	オリエンテーション 介護等体験で何を学ぶのか			
2	介護等体験の意義と課題	PC	配付資料の復習、予習	60
3	介護等体験にいかに関心を持つか	PC 配付資料	配付資料の復習、予習	60
4	総合支援諸学校とは	PC 配付資料	WebClass、配付資料の復習、予習	60
5	総合支援諸学校での介護等の体験	PC 配付資料	WebClass、配付資料の復習、予習	60
6	社会福祉施設での介護等の体験	PC 配付資料	WebClass、配付資料の復習、予習	60
7	講演会	配付資料	配付資料の復習	90
8	介護・介助実技指導(ビデオを含む) ・車椅子、食事介助	タオル		60
9	各実習総合支援学校のオリエンテーション	配付資料	上履き、名札等を持参	60
10	各実習施設のオリエンテーション	配付資料	上履き、名札等を持参	60
11	介護等体験	介護等体験日誌	日誌を書くこと	4~7 時間
12	介護等体験	介護等体験日誌	日誌を書くこと	4~7 時間
13	介護等体験	介護等体験日誌	日誌を書くこと	4~7 時間
14	介護等体験	介護等体験日誌	日誌を書くこと	4~7 時間
15	介護等体験の事後指導	介護等体験日誌	介護等体験レポート提出	